

### 3 継続・安定した地域活動に影響する要因の検討

#### 3. 1 概要

本章では、継続・安定した地域活動に影響する要因について検討することを目的に、以下のように調査・分析を行った（図 3-1）。なお、本章を検討する際に使用したアンケート調査票や調査の単純集計結果などは、参考資料として本資料付属の CD-R に PDF 形式で掲載している。

##### ① 継続・安定した地域活動に影響する要因の仮説（3. 2）

まず、継続・安定した地域活動に影響する要因を探るためにヒアリング調査を実施した。その結果、地域住民の意識や行動の面で共通の特徴が見られたため、これを仮に「地域の特性」と呼んで、既往の類似概念も参考に考察した。すると、「地域の特性」は、「地域での規範」「地域への信頼」「ネットワーク」「地域に対する関心」の4つの特性で表されるという仮説が得られた。

##### ② 「地域の特性」に関する定量的検討と地域活動の展開のパターン分析（3. 3～3. 4）

次に、この「地域の特性」を定量的に検討するためにアンケート調査を実施し、因子分析と相関分析を行った。具体的には、因子分析を用いて、「地域の特性」が4つの特性として定量的にも表されるかを検討し、相関分析によって「地域の特性」と「地域活動」との関連の分析を行った。

因子分析の結果、仮説とは少し異なり、「地域の特性」は「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」の4つの特性で説明できることがわかった。

また、相関分析の結果、自治会活動の活発さと「地域における行動規範」、NPO 活動の活発さと「地域に対する愛着」、「地域内外での人との付き合い」「地域内での信頼」の間に相関関係があることがわかった。

更に、ヒアリング対象事例を地域活動の展開のパターンに着目して時系列で整理したところ、「地域の特性」と地域活動の継続・安定した実施状況が相互に関連し合っていることが明らかになった。

##### ③ 「地域活動支持力」という概念の提案とその特徴の整理（3. 5～3. 6）

以上の結果から、「地域の特性」とは、「地域住民の持つ、地域活動を受け入れて支えるような地域住民の意識や行動面での特性」であることから、地域住民の持つ「地域活動支持力」とも呼べるものであることがわかった。これより、継続・安定した地域活動に重要な役割を果たすと考えられる「地域活動支持力」という概念を提案した。

最後に、継続・安定した地域活動のためには、地域活動を実施する活動主体やそれを支援する行政が、地域住民の持つ「地域活動支持力」を十分に把握し、これを踏まえて地域活動を実施したり、行政支援を行うことが重要であることを示し、地域活動支持力の特徴を簡単に整理した。

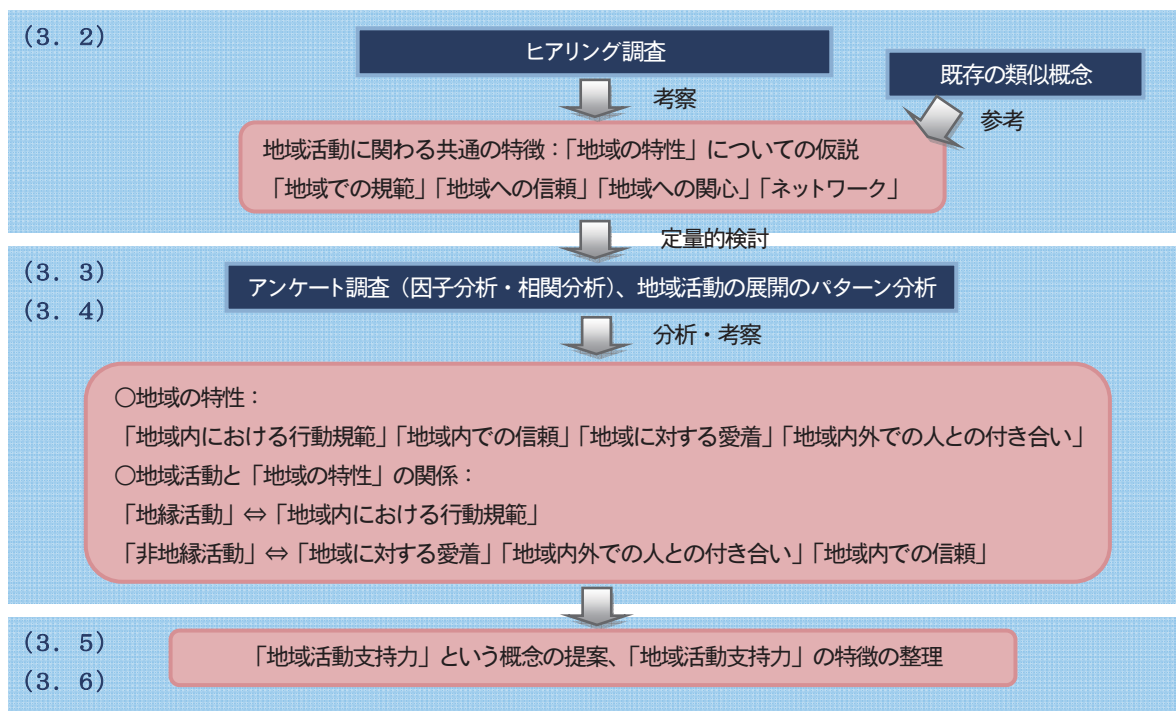


図 3-1 3章検討の流れ

### 3. 2 継続・安定した地域活動に影響する要因の仮説

ここでは、継続・安定した地域活動に影響する要因を探るためにヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の対象としたのは、住民にとって身近な水循環健全化に関わるような地域活動が、継続・安定して行われている事例である。

#### 3. 2. 1 ヒアリング調査の方法

調査対象事例は以下の8事例である（図 3-2 参照）。調査対象の選定にあたっては、「手づくり郷土賞」などの各種顕彰制度で受賞歴のある活動事例を参考にして、水源地域における森林保全、河川の環境保全や環境再生、下水処理水の再利用や雨水利用など、水循環健全化に関わる各種分野における地域活動事例を抽出した。（なお、各調査対象事例におけるヒアリング対象者は表 3-1 の通りである。）

- ①矢作川流域における「矢作川水系森林ボランティア協議会」による森の健康診断活動
- ②広島県東広島市における「西条・山と水の環境機構」による地下水や里山保全活動
- ③山口県山口市・榎野川流域における「榎野川の源流を守る会」などによる環境保全活動
- ④東京都墨田区・一寺言問地区における「一言会」による雨水利用・防災まちづくり活動
- ⑤岐阜県郡上市・郡上八幡における用水保全活動
- ⑥静岡県三島市における「グラウンドワーク三島」による水辺環境再生・保全活動
- ⑦徳島県徳島市における「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動
- ⑧横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道における「水辺愛護会」による水路の維持管理活動

ヒアリング調査項目は以下の通りである。

- ①基礎情報（活動の経緯，活動内容，運営・実施体制，参加状況，資金）
- ②会員，活動・イベント参加者，住民の意識
- ③活動の効果（地域への貢献・効果の内容，社会的認知，活動の広がり）

③榎野川流域における環境保全活動



②「西条・山と水の環境機構」  
里山保全活動



⑤郡上八幡における  
用水保全活動



①「矢作川水系森林  
ボランティア協議会」  
森の健康診断活動



⑦「新町川を守る会」  
環境保全・まちづくり活動



⑥「グラウンドワーク三島」  
水環境保全活動



⑧江川せせらぎ「水辺愛護会」  
水路維持管理活動



⑥「一言会」  
防災まちづくり活動

図 3-2 調査対象事例

表 3-1 ヒアリング対象一覧

調査対象事例の団体名	ヒアリング対象
「矢作川水系森林ボランティア協議会」による森の健康診断活動	
矢作川水系森林ボランティア協議会（矢森協）	代表
矢作川研究所、天然アユ調査会	所長、研究顧問、研究員
矢作川漁業協同組合	組合長
「西条・山と水の環境機構」による地下水や里山保全活動	
西条・山と水の環境機構	会長、事務局長、運営委員
東広島ボランティアガイドの会	会長
NPO 法人ひろしま人と樹の会	副会長
榎野川流域における環境保全活動	
榎野川の源流を守る会	会長
榎野川流域通貨・連携促進検討協議会	事務局長
榎野川流域活性化交流会（山口中央森林組合内）	森林組合員
榎野川漁業協同組合	組合員
山口県	環境政策課環境政策班
山口市	環境保全課、林業振興課
「一言会」による雨水利用・防災まちづくり活動	
一寺言問を防災のまちにする会（一言会）	会長
NPO 法人雨水市民の会	事務局長、墨田区職員
郡上八幡における用水保全活動	
柳町町並み保存会	会長
職人町町並み保存会	会長
さつきの会	事務局長
いがわと親しむ会	会長
宗祇水奉賛会	会長、会員
郡上市 八幡地域振興事務所	基盤整備課都市計画係
「グラウンドワーク三島」による水辺環境再生・保全活動	
NPO 法人グラウンドワーク三島	事務局長
三島市	まちづくり部まちなみ再生課
「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動	
NPO 法人新町川を守る会	理事長
徳島市	企画調整課、公園緑地課
「水辺愛護会」による水路の維持管理活動	
佐江戸せせらぎ水辺愛護会	会長、副会長
パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株)	ボランティア倶楽部、環境センター
都田江川水辺愛護会	会長、副会長、会計
山崎製パン(株)	工場長、総務課
横浜市 都筑区土木事務所	下水道・公園係

### 3. 2. 2 ヒアリング調査結果の概要

ヒアリング対象事例のうち、③～⑧についてはある一定地域の住民全体を対象とし、地域内で根付くような活動を目指している事例である。しかし、①は不在山主への技術的対応とキャンペーン型のイベントが活動の中心であり、また活動は10年間の期限付きであることが資料収集やヒアリング調査を通じてわかった。②は酒造会社による地域貢献活動及び地下水保全の一環として始まった里山活動で、学校や市民を対象としたイベント活動と、団体の基金による地域活動団体への支援が活動の中心である。

ヒアリング調査、アンケート調査は、地域活動が継続・安定して実施されるための共通の要因を探ることを目的としている。このため、キャンペーン型の活動や期限付きの活動、企業によるある程度の収入が確保されている活動は、この目的に照らし合わせると他の活動とは性質が異なると考えられる。そこで以下の検討は③～⑧の事例のヒアリング調査結果を中心に行っている。

しかし、①および②の活動内容には、継続・安定した地域活動を実施する際の参考となるものが含まれていることから、6章の技術資料では①や②へのヒアリング調査によって得られた知見も活用する。

#### ① 活動の現状

③～⑧のいずれの事例も、ある地域（町、市、水辺沿いなどの流域の一部）内において、地域活動が3～5年以上継続して行われている。活動組織の形態としては、NPOなどの活動団体が町内会や地域の中心的人物、地域住民に働きかけるもの（事例⑥⑦）や、町内会単位で、ただし町内会活動とは別に活動を行うもの（事例③④⑤⑧）があった。

NPOによる活動では、NPOが町内会や住民と積極的にコミュニケーションを取り、地域の人的ネットワークや地域の現状、課題を的確に把握することを心掛けている事例が見られた（事例⑥）。

#### ② 活動の効果・成果

各事例とも水辺の環境が改善した、間伐によって森林環境が改善した、ゴミが減少した、などの直接的な効果が得られていた。これに加えて以下のような事例もあった。

初めは清掃活動をしなくても周辺住民の協力が得られず、水辺環境もなかなか改善されず、細々と自らが楽しめるような形で活動を続けていた。しかし、続けるうちに、水辺が綺麗に保たれるようになり、近隣を散策する住民や、散策中にゴミを見つけると自ら拾う住民が増えた（事例⑥⑦⑧）。

#### ③ 会員などの意識

会員や地域住民が地域活動に参加することで、活動の場に対する所有意識、活動に対する責任感や誇りを持つようになった事例が見られた（事例④⑥⑦⑧）。一方で、従来から町内会活動が活発で、そもそも地域は皆で良くするもの、町内活動には参加するもの、という意識を持つ住民が多い地域も見られた。（事例③⑤）また、活動に主体的に参加しなくても、活動や水辺に対する認識を持ち、ゴミを拾うなどの行動を行う住民が徐々に増えてきた事例もある（事例⑥⑦⑧）。

### 3. 2. 3 継続・安定した地域活動事例の共通点の考察

ヒアリング調査結果から、調査対象事例では、活動の場（水辺など）が活動への参加者や住民によって良好に保たれており、地域活動で課題となりがちな「維持・管理」が継続して行われているという共通点があった。

更に、地域活動を主体的に実施する団体と地域住民との間に共通した関係が見られた。

地域活動団体は、住民の意識や人的ネットワークなどの特性を元から良く知っている人が中心的な役割を果たしていたり、そうでない場合でも、住民と積極的にコミュニケーションを図って地域の実情を把握し、課題を掘り起こしたりするなど、地域をよく知り、住民の意識や人的ネットワークなどの特性を踏まえた活動を実施していた。こうした活動が実施されることで、住民も積極的に活動に参加したり、積極的ではなくとも、活動に反発せずに理解を示す（活動状況を認識する、ゴミを見つけて自ら拾う）など、住民がそれぞれ持つ意識や行動面での特性に応じて地域活動を受け入れて支えていた（各調査対象地域での具体例は表 3-2）。

すなわち、調査対象事例では、「地域活動団体が地域住民の意識や人的ネットワークなどの特性に応じた地域活動を実施し、地域住民がそれぞれ持つ意識や行動面での特性に応じて地域活動を受け入れて支えることで、継続・安定した地域活動が行われている」という共通点が見られた。

表 3-2 地域住民の意識や人的ネットワークなどの特性を踏まえた地域活動と地域住民による活動の受け入れ（ヒアリング調査により把握）

事例	地域住民の意識や人的ネットワークなどの特性を踏まえた活動の実施(一例)	地域住民による活動への参加、理解
①山口市・榎野川流域における「榎野川の源流を守る会」による環境保全活動	課題認識を持った中心的住民が地域内の集まりなどで働きかける。	元々地域自治意識の高い地域であることから、地域住民が地域内の意見をすぐに統一して活動を支援した。
②墨田区・一寺言問地区における「一言会」による雨水利用・防災まちづくり活動	町内会の中心的なメンバーとその周辺住民等による自主的な活動であるが、町内の住民全体を対象とした活動を実施し、また活動への参加を働きかけることで地域内への周知・参加者を増やす努力を行う。	町内会の中心的なメンバーによる活動であることを地域住民が認識し、日常的な活動を通じてメンバーを信頼しており、活動に対して協力的である。
③郡上八幡における用水保全活動	町内会単位で水路維持の活動を実施するが、強制参加はさせない。	町内において水路維持は生活の一部になっている。 参加しない人もまちを汚さないという意識は持っている。
④三島市「グラウンドワーク三島」による水辺環境再生・保全活動	住民とコミュニケーションを頻繁に取り、ワークショップや勉強会も何度も開催することで、地域の実情を把握するとともに、地域の課題、やるべきことを整理する。	頻繁なコミュニケーションによりNPOが少しずつ地域で信頼されるようになった。 時間をかけた勉強会等を通じて地域の長所や課題を認識し、整備や維持管理に主体的に参加するようになった。
⑤徳島市「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動	清掃活動、イベント活動、周遊船の運航、森林保全活動など、多岐に渡る活動を実施する。	活動への積極的な参加、近隣の清掃のみ参加、イベントのみ参加…など、各住民が自らのスタイルに合う参加を行っている。
⑥横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道における「水辺愛護会」による維持管理活動	町内の有志が、自らの持つ人的ネットワークを用いて活動の参加者を少しずつ増やし、企業も巻き込み活動を実施し続ける。	活動が実施されるうちに、周辺企業の参加も促進され、地域の水辺に対する認識も少しずつ変化し、水辺にごみを捨てる人が減った。

### 3. 2. 4 地域の特性についての仮説

ここで、これまで、地域住民の意識や人的ネットワークなどの特性、地域住民の持つ意識や行動面での特性などと表現してきた「地域活動に関わるような地域住民の意識や行動面での特性」を仮に「地域の特性」と呼ぶ。

3. 2. 3 より、「地域の特性」に応じた地域活動が実施されると、地域住民がそれぞれの「地域の特性」に応じて地域活動に理解を示して参加する、この両者の良好な関係によって、継続・安定した地域活動が行われていると考えられる。このことから、継続・安定した地域活動を行うためには、地域活動を実施する活動主体やそれを支援する行政が、まずは「地域の特性」を十分に把握し、その特性を踏まえて地域活動を実施したり支援を行ったりすることが重要であると考えられる（図 3-3）。

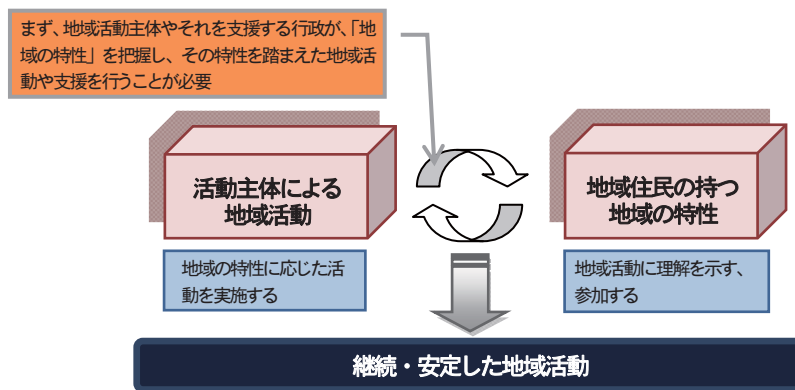


図 3-3 継続・安定した地域活動と地域の特性の関係

以上の関係が考察されたことから、地域活動に際して把握することが重要と考えられる「地域の特性」について推察した。

まずヒアリング調査結果を参考に「地域活動に関わるような地域住民の意識や行動」を抽出した（表 3-3）が、これらはヒアリング調査によって得られた単なる断片的な言語情報である。この断片的な言語情報を、既存の概念であるソーシャルキャピタルの構成要素を参考に考察することで、地域活動に関わるような「地域の特性」についての仮説を立てた。

表 3-3 地域活動に関わるような地域住民の意識や行動

地域活動に関わるような地域住民の意識や行動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動を通じて地域におけるマナーが向上し、挨拶されるようになった、ゴミが捨てられなくなった</li> <li>・水辺を散歩中にゴミを拾う</li> <li>・地域活動に際して、周辺の人がガレージや水を貸してくれるようになった</li> <li>・地域で困ったことがあった際に行政に相談する</li> <li>・地域活動を実施する際に、元からの知り合いに声を掛けると比較的簡単に参加・協力してくれる</li> <li>・積極的に地域活動に参加している人に声を掛けられて、お付き合いではあるが活動に参加し始めた</li> <li>・広報などを通じて地域活動を知り、活動を気にするようになった</li> <li>・水辺(川や水路)が汚いことが目についてどうにかしなければと感じていた</li> <li>・日常的に地域の水辺(川や水路等)を散策する</li> </ul>



## ① ソーシャルキャピタルの定義

まず、既存の概念であるソーシャルキャピタルの定義について簡単に整理する。

ソーシャルキャピタルは、「ネットワーク、信頼、規範を資本と考えることにより、それらが社会で形成、蓄積されると捉える概念（佐藤 2001）」であり、近年、社会学、経済学、政治学などの分野で幅広く活用されている。しかし、時代の変遷、研究分野や研究者によってその定義は様々であり、明確な定義が確立しているわけではない。

1916年、アメリカの教育学者 L.J. Hanifan によって初めて「ソーシャルキャピタル」という言葉が使われ（「誠意、仲間、相互の共感、家族や集団内での社交などを意味している」と述べている）、その後、都市計画分野においてアメリカのジャーナリスト Jane Jacobs が都市部の社会的ネットワークをソーシャルキャピタルと表現し、近代都市における隣人関係の重要性を強調した（1961年）。アメリカの経済学者 Glenn Loury（1977年）は、長い時間の社会関係性の蓄積の結果にあるものがソーシャルキャピタルであり、個人がもともと帰属している家族やコミュニティの社会的位置に起因して機会損失の不平等が発生しているとして、人種間の収入格差の説明にソーシャルキャピタルの概念を用いた。1986年、フランスの社会学者 Pierre Bourdieu は「個々人が持つ長期継続的なネットワークに内在し、ネットワークに所属する個人が活用可能な現存のあるいは潜在的な資源」としてソーシャルキャピタルを定義した。

これに対して、アメリカの社会学者 James S. Coleman は、ソーシャルキャピタルとは、個人に協調行動を起こさせる社会の構造や制度であるとし、人々が集団や組織で目的のために協働できる能力であり、この能力は、コミュニティが、規範や価値を有し、個人的利害を大きな集団の利害に従属させることのできる能力に依存するとしている。この合理的な個人が協調行動を起こすメカニズムを、信頼・互酬性の規範・社会的ネットワークで説明しており、Putnam の研究に大きな影響を与えている。

1993年、アメリカの政治学者 Robert D. Putnam は、それまで社会学の分野で発展してきたソーシャルキャピタルを政治学に適用させた。Loury や Bourdieu がソーシャルキャピタルは個人の利益を決定づけるものとしたのに対して、Putnam はソーシャルキャピタルを「人々の協調的な行動を容易にすることによって、社会の効率性を改善できるもの」で「一般化された互酬性の規範、市民的積極参加（ネットワーク）、社会的信頼といった社会的組織の特徴」と定義しており、一般化された互酬性の規範と市民的積極参加のネットワークは、社会的信頼と協力を促進するとしている。

その後、ソーシャルキャピタルの概念は、マクロな経済学的調査にも用いられるようになり、英・豪などの各国、OECD、世界銀行など組織的な取り組みへと繋がっている。（以上、内閣府 2002、藤稿 2009、宮川・大守 2004、パットナム 2001より）

## ② 「地域の特性」の仮説

本研究では、「地域活動に関わるような地域住民の意識や行動面での特性」を「地域の特性」として表している。

このため、①の既往の定義と照らし合わせると、James. S. Coleman の定義「人々が集団や組織で目的のために協働できる能力」に基づいて分析を深めた、Robert D. Putnam の定義「互酬性の規範、市民的積極参加のネットワーク、社会的身体といった社会的組織の特徴で、人々の協調行動を活発にするもの」が本研究での概念と比較的近いと考えられる。そこで、この Putnam による定義を参考に「地域の特性」についての仮説を立てる。

地域活動を始めるきっかけとなるような、あるいは活動を受け入れて支えるような地域住民の意識や行動を、上記 Putnam によるソーシャルキャピタルの定義を参考にしながら分類し、どういった特性で言い表すことができるのか整理したところ、以下の4つの特性に分類できた(表 3-4)。

すなわちヒアリング調査結果から、地域活動に関わるような「地域の特性」(地域活動に関わるような地域住民の意識や行動面での特性)は、以下の4つの特性で言い表されるのではないかとの仮説が得られた。

### 「地域での規範」:

Putnam によるソーシャルキャピタルでは、法的強制力は伴わないが、社会生活の中での模倣、日常的な教育、制裁によって叩き込まれるものとして「互酬性の規範」が示されており、この中でも「一般化された互酬性の規範」(ある時点では均衡を欠くとしても将来には均衡がとれるであろうという相互期待を伴う交換の持続的關係)が利己心と連帯の調和に役立つとされている(パットナム 2001)。

例えば個人が地域のゴミを拾うという行動は、その時点では均衡を欠くものの、将来的には地域の皆がゴミを捨てない、拾う、このことで地域にゴミが落ちていないという状態が得られるであろうという期待を伴う交換の持続的關係と言える。

ヒアリング調査では、地域のゴミを拾う、といった行動のほか、その結果として、ゴミが捨てられなくなる、または挨拶をするといった、法的強制力を伴わないが、地域内で共有された規範的な行動が確認できたため、これらは「地域内における規範」と言い表されると推察した。

### 「地域への信頼」:

Putnam によるソーシャルキャピタルでは、「社会的信頼」が協力を生むとされている。ヒアリング調査では、継続的な活動を通じて周辺住民がガレージや水を貸してくれるようになった、行政によく相談に行く、など地域活動への協力を円滑にするもの、更なる活動に繋がるものとして「地域(地域住民や行政)に対する信頼」と言い表されるような意識や行動が確認できた。

### 「ネットワーク」:

Putnam によるソーシャルキャピタルでは、「市民的積極参加のネットワーク」として位置づけられており、近隣集団やスポーツクラブなど水平的な集団活動による繋がりがより幅広い協力を育てる

としている。ヒアリング調査では、地域内外での日常的な人付き合いや地域における情報の取得など地域活動への参加に繋がるものとして、人的あるいは情報面での「ネットワーク」と言い表されるような行動が確認できた。

「地域に対する関心」:

一般的にソーシャルキャピタルの構成要素には「関心」という項目は存在しない。しかし、ヒアリング調査では、地域に対する問題意識（地域の川が汚いことが目についてどうにかしなければならな  
いと感じた）や、水辺を散策するといった地域に親しむ行動など、「地域に対する関心」と呼べるよ  
うな地域活動のきっかけとなる意識や行動が確認できた。本研究では地域における活動と地域住民の持  
つ特性との関係に着目しており、個人間やコミュニティ内の社会的関係のみならず、地域そのもの  
に対する意識が地域のための活動を規定する要因となっていると考えられることから、「地域に対する関  
心」という項目を追加した。

表 3-4 ヒアリング調査から得られた地域住民の意識や行動と「地域の特性」

地域活動に関わるような地域住民の意識や行動(表3-3と同様)	地域の特性
地域活動を通じて地域におけるマナーが向上し、挨拶されるようになった、ゴミが捨てられなくなった 水辺を散歩中にゴミを拾う	地域での規範
地域活動に際して、周辺の人がガレージや水を貸してくれるようになった 地域で困ったことがあった際に、行政に相談に行く	地域への信頼
地域活動を実施する際に、もとからの知り合いに声を掛けると比較的簡単に参加・協力してくれる 積極的に参加している人に声を掛けられて、お付き合いではあるが活動に参加し始めた 広報などを通じて地域活動の存在を知り、活動を気にするようになった	ネットワーク
水辺(川や水路)が汚いことが目についてどうにかしなければと感じていた 日常的に地域の水辺(川や水路等)を散策する	地域に対する 関心

### 3. 3 「地域の特性」に関する定量的検討

#### 3. 3. 1 アンケート調査の方法

前項において仮説を立てた「地域の特性」を定量的に検討するために、静岡県三島市内にある 40 町を対象として、住民アンケート調査及び自治会長アンケート調査を行った。自治会長アンケート調査は、住民アンケート調査では得られない自治会の運営実態等を把握するために補完的に行ったものであり、分析では主に住民アンケート調査の結果を用いている。

##### ① アンケート対象地域

アンケート調査対象地域を静岡県三島市としたのは、環境保全に熱心に取り組んでいる都市であることをヒアリング調査により把握していたこと、特に町（自治会）スケールで環境保全活動に取り組む町が見られる一方で、そうでない町も存在していることから、町別での比較が可能であると考えられたこと、更に、アンケート調査に際して NPO 法人グラウンドワーク三島及び三島市の協力を得ることができたことによる。なお、三島市の概要は次頁 BOX 1 の通りであり、全国でも中規模程度の平均的な都市であると考えられる。

三島市には、平成 19 年 4 月時点で約 140 の町が存在するが、全ての町を調査対象とすることは困難であるため、統計学的な信頼性を考慮して 40 町を選定した。地域活動と「地域の特性」との関係を検討することが目的であるため、地域活動が比較的活発であると想定される町（グラウンドワーク三島による活動が行われている町）とそうでないと想定される町が含まれること、三島市内に存在する地区間で偏りが生じないことを選定の条件とした。

具体的な自治会の選定に当たっては、三島市および NPO 法人グラウンドワーク三島の協力を得た。

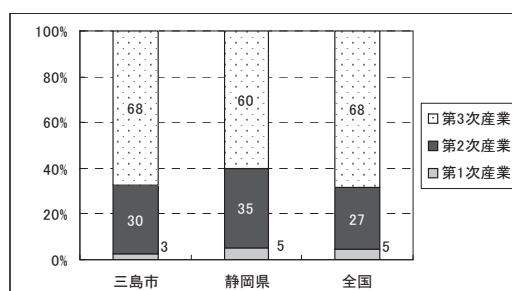
選定した調査対象（名称は自治会として記載している）を表 3-5 に示す。また、グラウンドワーク三島による活動と各自治会との関わりを表 3-6、各自治会の位置を図 3-4 に示す。

## ◇三島市の概要◇

静岡県三島市は人口約 11 万人、面積約 62.13km<sup>2</sup>の都市である。静岡県 42 市町のうち 10 番目、全国 2217 市町村では 223 番目の人口規模であり、中規模程度の人口を持つ都市であると言える。15 歳未満人口の割合（14.1%）は、静岡県平均（14.2%）および全国平均（13.7%）と大きな相違はない。また、65 歳以上人口の割合（19.1%）も、静岡県平均（20.5%）および全国平均（20.1%）と大きな相違はない（下図、H17 国勢調査より）。

	市町名	人口	15 歳未満 人口割合	65 歳以上 人口割合
1 位	浜松市	804,032 人	14.4%	19.9%
2 位	静岡市	700,886 人	13.4%	21.0%
3 位	富士市	236,474 人	15.6%	18.1%
4 位	沼津市	208,005 人	13.6%	20.8%
5 位	磐田市	170,899 人	14.2%	18.9%
10 位	三島市	112,241 人	14.1%	19.1%
-	静岡県	3,792,377 人	14.2%	20.5%
-	全国	127,767,994 人	13.7%	20.1%

産業別就業者の割合では、第 1 次産業就業者が約 3%、第 2 次産業就業者が約 30%、第 3 次産業就業者が約 68%であり、全国平均（第 1 次産業就業者約 5%、第 2 次産業就業者約 27%、第 3 次産業就業者約 68%）とほぼ同程度である（下図、H17 国勢調査及び三島市の統計 2007 を元に作成）。



1 世帯当たり人員は 2.56 人（全国平均 2.55 人）、持ち家率は 58.7%（全国平均 61.0%）で全国平均とほぼ同程度である（H17 国勢調査より）。

以上のことから、三島市における世帯人数や居住形態、就業者の産業などは概ね全国平均に近い状況にあると言える。

	三島市	静岡県	全国
1 世帯当たり人員	2.56 人	2.77 人	2.55 人
持ち家率	58.7%	64.4%	61.0%

※一帯当たり人員及び持ち家率はH17 国勢調査結果、世帯収入はH16 全国消費実態調査結果を元に作成、なお、持ち家率は一般世帯に占める持ち家世帯の割合である。

表 3-5 調査対象町（自治会名）一覧

番号	地区	自治会名	GW 三島との関わり
1	西部	加屋町自治会	○
2		清住町自治会	○
3		緑町自治会	○
4		南町自治会	○
5		広小路町自治会	○
6		泉町自治会	○
7		西本町町内会	×
8		三好町自治会	○
9	中部	本町大中島自治会	○
10		本町小中島町内会	○
11		南本町高台町内会	○
12		芝本町1丁目町内会	○
13		芝本町2丁目町内会	○
14		芝本町3丁目町内会	○
15		一番町町内会	○
16		南田町町内会	○
17	富田町自治会	○	
18	中央町自治会	×	
19	東部	文教町2丁目自治会	○
20		大社町自治会	×
21		大宮町1丁目自治会	×
22		大宮町2丁目自治会	×
23	加茂町内会	×	
24	北上	沢地町内会	○
25		東壺町田町内会	○
26		富士ビレッジ自治会	×
27		徳倉第5自治会	×
28		富士見台自治会	×
29	見晴台自治会	×	
30	錦田	三ッ谷自治会	○
31		三恵台自治会	×
32		初音台町内会	×
33		錦が丘自治会	×
34	松が丘自治会	×	
35	中郷	大場町内会	○
36		長伏町内会	○
37		御園町内会	○
38		安久町内会	△
39		東大場町内会	△
40		梅名自治会	×

注1：「GW 三島との関わり」に関する記号の意味は以下のとおり

- ：GW 三島が関わっている自治会
  - ×
  - △：GW 三島が最近アプローチを開始した自治会
- (GW 三島へのヒアリング調査により把握)

表 3-6 グラウンドワーク三島の活動と関わりのある自治会

自治会	活動場所	活動の開始年	内容等
緑町自治会 南町自治会 広小路町自治会 本町大中島自治会 本町小中島町内会 南本町高台町内会 芝本町1丁目町内会 芝本町2丁目町内会 芝本町3丁目町内会 一番町町内会 南田町町内会 富田町自治会	源兵衛川親水公園	1990年	地域の声に応えて、県が整備した親水公園。源兵衛川の自然環境を生かすため、流域に8ゾーンを設定し、各ゾーンの特性をいかした整備が行われた。 源兵衛川再生のための活動は、グラウンドワーク三島設立の契機となっており、計画前の地域での清掃活動や各種組織の結成から、親水公園の整備計画、維持管理まで、地域住民やグラウンドワーク三島が中心となって行っている。
文教町2丁目自治会	鏡坂ミニ公園	1993年	3者(県・市・企業)所有の遊休地をGWのコーディネート、住民の一斉作業、行政・企業の間接支援により公園として再生した。
一番町町内会	鏡池ミニ公園	1994年	GWのコーディネート、市民・NPO・企業・行政の協力で元湧水池を整備した。地元有志による維持管理作業が行われている。
沢地町内会	沢地グローバルガーデン	1994年	休耕畑を借用し、国際交流・環境教育を実践する団体を中心に公園整備を行った。環境教育の場として活用している。
南本町高台町内会	三島梅花藻の里	1995年	三島梅花藻復活のため、佐野美術館から借りた湧水池をGWが中心となって整備した。市民団体を中心に維持管理している。
東老町町内会	みどり野ふれあいの園	1995年	GWの仲介により、自治会が中心となって市の遊休地を公園として整備した。住民による維持管理が行われている。
加屋町自治会 清住町自治会	境川・清住緑地	1998年	県からの要請を受けGWが計画づくりをコーディネート。住民提案に基づき、当初計画案を変更して整備された。市からの管理委託による市民主体の公園管理が行われている。
緑町自治会 本町大中島自治会 本町小中島町内会	腰切不動尊・甲羅伏・井戸再生事業	1999年	近隣住民からの相談を受けてGWと地域住民によって祭りと古井戸を復活させた。祭りの運営は地元大学のゼミが中心となってコーディネートしている。
長伏町内会	長伏小学校ビオトープ「夢トープ」	1999年	PTAからの相談を受けてGWが仲介役となり、学校・PTA・地域住民・企業によって、協働型環境教育の場として整備された。
大場町内会	三島南高校ビオトープ	2003年	「うっそうとした湿地」をテーマに地域・GWのアドバイスを受け生徒が設計図を作成、学校・地域などの連携により整備された。
長伏町内会 御園町内会	松毛川周辺自然再生	2003年	水辺自然環境の自然再生事業を県、市が開始した。関係機関・地域との調整に際してGWがプロデューサーとなり、ワークショップや自然観察会等を開催している。市による環境配慮の不備もあるが、住民との協働により計画を進行している。
泉町自治会	宮さんの川・ほたるの里	2005年	川沿いの住民が河川美化・景観整備を行ってきた川の最上流部での水路の建設とホタル生息環境整備などをGWが発案、市の「街中がせせらぎ事業」の委託を受け、地域総参加で実施した。
三ツ谷自治会	そばづくり隊	2005年	環境コミュニティ・ビジネスの一環として、箱根西麓の休耕地を活用してそば・小麦作りを行う事業プログラムである。2005年度は三ツ谷地区約2000m <sup>2</sup> で蕎麦を栽培し、約80kgの収穫があった。
三好町町内会	その他	-	-

注：「宮さんの川・ほたるの里」及び「そばづくり隊」は、活動開始年を明記した資料が確認できなかったことから、既存資料等から推定したおおよその時期としている。

ヒアリング調査資料、グラウンドワーク三島提供資料、渡辺（2005）参照

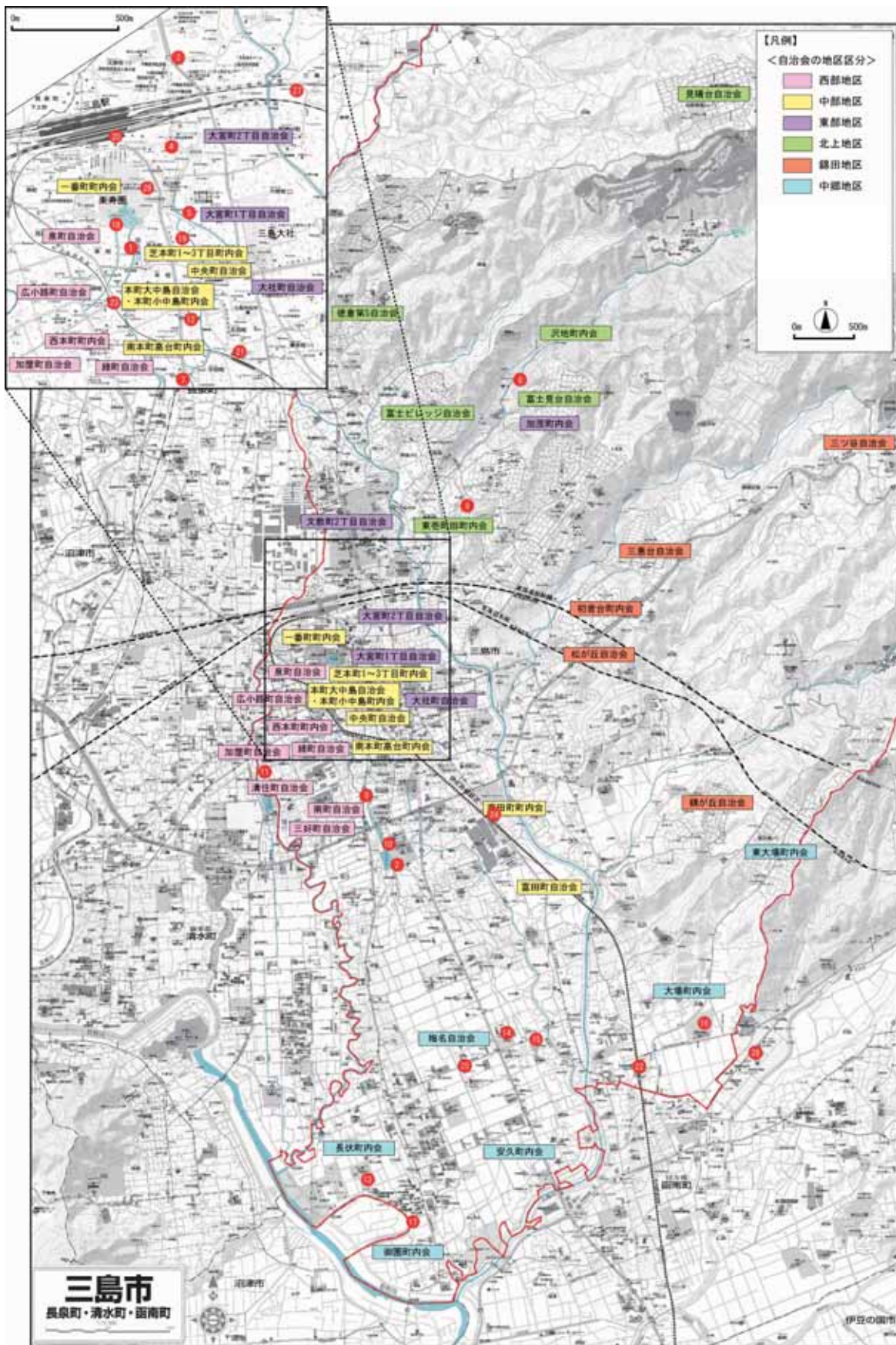


図 3-4 三島市内における調査対象自治会の位置



## ② 住民アンケート調査

住民アンケート調査は静岡県三島市内 40 町内に計 4000 通を郵送配布した。

調査項目は、地域活動への参加頻度 (Q1) と「地域の特性」に関する調査項目 (Q2~Q14) (以上表 3-7)、および個人属性 (年齢、職業、居住形態、世帯構成など) である。

Q2~Q14 は、ヒアリング調査により得られた住民の意識や行動面での特徴 (表 3-7 中ピンク部分) と内閣府国民安全局市民活動促進課 (2003) でのアンケート調査項目を参考に設定した。

なお、アンケート調査票は参考資料 1 に掲載している (本資料付属の CD-R に PDF 形式で掲載)。

表 3-7 アンケート調査項目 (地域活動への参加頻度 (Q1) と地域の特性に関する調査項目 (Q2~14))

No.	アンケート調査項目	想定
Q1	自治会による地域活動に参加していますか NPO 等による地域活動に参加していますか	
Q2	あなたは地方選挙の時に必ず投票に行きますか	
Q3	あなたはこれからも住んでいる地域に住み続けたいと思いますか	
Q4	あなたの住んでいる地域では、地域全体で改善すべき課題(皆が悩んでいることや困っていること等)があると思いますか	関心
Q5	あなたは住んでいるところの近くで、自然(川や水辺、樹林、草地など)にふれあえる場所に良く行きますか	
Q6	あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか	
Q7	あなたの住んでいる地域では、地震などの災害があったとき、困っていれば近所の人が助けてくれると思いますか	信頼
Q8	あなたは三島市を信頼できると思いますか	
Q9	あなたは近所の道路や公園、水辺などに、もしごみが落ちていたら拾いますか	
Q10	あなたは家の近くで人に会ったら挨拶をしますか	規範
Q11	あなたは家の近くで自動車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに、交通マナーに気を配っていますか	
Q12	あなたは地域の回覧板について、きちんと目を通して次に回していますか	
Q13	あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか	ネット
Q14	あなたは町外の人とよく付き合っていますか	

## ③ 自治会長用アンケート調査

自治会の運営や活動実態を把握することを目的に、個人用アンケート調査を実施した三島市内 40 町の自治会長を対象としたアンケート調査も併せて実施し、個々の自治会を把握するための基礎資料とした。自治会長用アンケート調査の主な調査項目は以下のとおりである。なお、自治会長用アンケート調査票は参考資料 1 に掲載している (本資料付属の CD-R に PDF 形式で掲載)。

### 【主な調査項目】

- ・ 地域活動の実態、自治会の成立時期
- ・ 地域の自然的・文化的資源や課題
- ・ 回覧板等の情報発信の仕組み など

### 3. 3. 2 アンケート調査結果の概要

住民アンケート調査は平成 19 年 12 月～平成 20 年 1 月にかけて静岡県三島市内 40 町内に居住する 20 歳以上の住民を対象とし、各町 100 名ずつを無作為抽出して計 4000 通を郵送配布・郵送回収した。住民アンケートの回収状況は、表 3-8 に示す通りであり、アンケートの回収率は 27% であった。回収率は東壺町田町内会の 38%～三好町町内会の 12% まで自治会によって多少のばらつきがあった。

グラウンドワーク三島との関わりの有無で見ると、グラウンドワーク三島が関わっている自治会の回収率が 25.0%、関わっていない自治会の回収率が 27.2% であった。

なお、単純集計結果は参考資料 1 に掲載している（本資料付属の CD-R に PDF 形式で掲載）。

表 3-8 住民アンケート調査の回収状況

項目		数量	備考	
アンケート配付数		4,000 通	各自治会当たり 100 通	
アンケート回収数		1,080 通	-	
全体回収率		27.0%		
自治会回収率	平均	26.3%	-	
	最高	38.0%	東壺町田町内会	
	最低	12.0%	三好町町内会	
	地区別	西部	25.3%	加屋町自治会、清住町自治会、緑町自治会、南町自治会、広小路町自治会、泉町自治会、西本町町内会、三好町自治会
		中部	23.4%	本町大中島自治会、本町小中島町内会、南本町高台町内会、芝本町 1 丁目町内会、芝本町 2 丁目町内会、芝本町 3 丁目町内会、一番町町内会、南田町町内会、富田町自治会、中央町自治会
		東部	26.8%	文教町 2 丁目自治会、大社町自治会、大宮町 1 丁目自治会、大宮町 2 丁目自治会、加茂町内会
		北上	28.7%	沢地町内会、東壺町田町内会、富士ビレッジ自治会、徳倉第 5 自治会、富士見台自治会、見晴台自治会
		錦田	30.2%	三ッ谷自治会、三恵台自治会、初音台町内会、錦が丘自治会、松が丘自治会
	中郷	24.0%	大場町内会、長伏町内会、御園町内会、安久町内会、東大場町内会、梅名自治会	
	GW 三島との関わり	有り	25.0%	23 自治会
無し		27.2%	17 自治会	

注：全体回収率は、所属自治会を記入してないものも含め、アンケート配付数をアンケート回収数で割ったものである。

平均回収率は各自治会の回収率を平均したものである。

また、自治会長アンケート調査の回収状況は表 3-9の通りであり、アンケートが回収できたのは 40 自治会中 30 の自治会であった。

なお、単純集計結果は参考資料 1 に掲載している（本資料付属の CD-R に PDF 形式で掲載）。

表 3-9 自治会長用アンケートの回収状況

地区	返信有り	返信無し
西部	加屋町自治会 清住町自治会 緑町自治会 南町自治会 広小路町自治会 西本町町内会 三好町自治会	泉町自治会
中部	本町大中島自治会 本町小中島町内会 南本町高台町内会 芝本町 1 丁目町内会 一番町町内会 南田町町内会 中央町自治会	芝本町 2 丁目町内会 芝本町 3 丁目町内会 富田町自治会
東部	文教町 2 丁目自治会 大宮町 1 丁目自治会 大宮町 2 丁目自治会	大社町自治会 加茂町内会
北上	沢地町内会 東壱町田町内会 富士ビレッジ自治会 富士見台自治会 見晴台自治会	徳倉第 5 自治会
錦田	三ッ谷自治会 三恵台自治会 松が丘自治会	初音台町内会 錦が丘自治会
中郷	大場町内会 御園町内会 安久町内会 東大場町内会 梅名自治会	長伏町内会
	30 自治会	10 自治会

### 3. 3. 3 分析に向けた係数の設定

アンケート調査結果の分析の際は、表 3-10 のように選択肢によって係数で重み付けをしたうえで、町（自治会）単位で集計し、平均値を算出した。例えば Q1 の場合、町の平均値が大きいほどその町には地域活動への参加頻度が高い住民が多いことになる。

本アンケート調査結果を用いた分析では、全てにおいてこれら各町の平均値を用いて分析を行っている。なお、地域活動の活動頻度（Q1）および地域の特性（Q2～Q14）の町毎の平均値は参考資料 2 に掲載している（本資料付属の CD-R に PDF 形式で掲載）。

表 3-10 各アンケート調査項目の係数の設定

No.	項目	係数	選択肢
Q1	自治会/NPOによる地域活動に参加していますか	1.00	所属しておりほぼ毎回参加する。
		0.75	所属しており時々参加する。
		0.50	所属しているが、あまり参加しない。
		0.25	所属していないが、参加してみたい。
		0.00	所属していないし、参加してみたいとも思わない。
Q2	あなたは地方選挙の時に必ず投票に行きますか	1.00	必ず投票に行く。
		0.67	たいてい投票に行く。
		0.33	たまに投票に行く。
		0.00	投票に行ったことがない。
Q3	あなたはこれからも住んでいる地域に住み続けたいと思いますか	1.00	ここに住み続けたい。
		0.50	特に住み続けたいわけではないが、たぶん住み続けるだろうと思う。
		0.00	どちらでもよい、わからない、他に移りたい。
Q4	あなたの住んでいる地域では、地域全体で改善すべき課題（皆が悩んでいることや困っていること等）があると思いますか	1.00	明らかに、改善すべき課題がある。
		0.67	なんとなく課題があると思う。
		0.33	改善すべき課題はほとんどない。
		0.00	わからない。
Q5	あなたは住んでいるところの近くで、自然（川や水辺、樹林、草地など）にふれあえる場所によく行きますか	1.00	よく行く場所があり、掃除や手入れを手伝っている。
		0.50	よく行く場所がある。
		0.00	自然の場所はあるが、あまり行かない 自然にふれあえる場所がない。 わからない。
Q6	あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか	1.00	良いと思う。
		0.50	どちらかというの良いと思う。
		0.00	どちらかというの悪いと思う。 悪いと思う。 わからない。
		0.00	悪いと思う。 わからない。
Q7	あなたの住んでいる地域では、地震などの災害があったとき、困っていれば近所の人々が助けてくれると思いますか	1.00	困っていれば、近所の誰かが助けてくれると思う。
		0.50	消防団の人などが助けてくれると思う。
		0.00	地域の人の助けは期待できないと思う。 わからない。

表3-10（続き） 各アンケート調査項目の係数の設定

No.	項目	係数	選択肢
Q8	あなたは三島市を信頼できると思いますか	1.00	大いに信頼できる。
		0.50	どちらかという信頼できる。
		0.00	どちらかという信頼できない。全く信頼できない。
Q9	あなたは近所の道路や公園、水辺などに、もしごみが落ちていたら拾いますか	1.00	気がついたら必ず拾う。
		0.50	できるだけ拾うようにしている。
		0.00	そのままにすることが多い。わからない。
Q10	あなたは家の近くで人に出会ったら挨拶をしますか	1.00	地域の人でも、知らない人でも必ず挨拶をする。
		0.50	知っている人なら挨拶をする。
		0.00	親しい人でない限り挨拶はしない。わからない。
Q11	あなたは家の近くで自動車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに、交通マナーに気を配っていますか	1.00	家の近くでは、特にマナーや安全に気を配っている。
		0.50	家の近くでも、どこでも、同じようにマナーや安全に気を配っている。
		0.00	規則は守っているが、それ以上特に気を配ることはしていない。わからない。
Q12	あなたは地域の回覧板について、きちんと目を通して次に回していますか	1.00	きちんと目を通し、できるだけ早く回すようにしている。
		0.50	きちんと目を通しているが、回すのが遅くなることがよくある。あまりきちんと目を通さないが、すぐに次に回すようにしている。
		0.00	あまりきちんと目を通さないし、回すのが遅くなることがよくある。回覧板は回ってこない。
Q13	あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか	1.00	家族ぐるみの付き合いがあるなど、隣近所との付き合いは深い方である。
		0.67	日常的に立ち話す程度で、隣近所との付き合いは普通だと思う。
		0.33	挨拶程度はかわすが、隣近所との付き合いは浅い方である。
		0.00	隣近所との付き合いは全くない。
Q14	あなたは町外の人とよく付き合っていますか	1.00	町外に、親しい仲間や友人が多くいて、付き合いが深い。
		0.67	あまり深い付き合いではないが、町外の仲間や友人は多い。
		0.33	数はあまり多くないが、町外に親しい仲間や友人がいる。
		0.00	町外に、仲間や友人はほとんどいない。

### 3. 3. 4 「地域の特性」に関する因子分析

3. 2では、地域活動に関わるような「地域の特性」が存在することを考察し、それは4つの特性で言い表されるとの仮説を立てた。ここでは、「地域の特性」の仮説について定量的に検討を行うために因子分析を行った。

#### ① 「地域の特性」に関する因子分析の方法

因子分析とは、複数の目的変数間の相関関係を分析し、目的変数の背後に潜む潜在因子を見つけ出そうとする多変量解析の分析手法である。この分析によって潜在因子が目的変数に及ぼす影響の程度が「因子負荷量」として算出され、この因子負荷量の大きさから潜在因子が何を表すかを解釈するものである。

因子分析では、目的変数  $y$  は、因子得点  $f$ 、因子負荷量  $b$ 、独自因子  $e$  の線形結合で表されることから、ここでは、地域の特性に関する調査項目の集計値を目的変数  $y$ 、地域の特性を潜在因子  $F$  として次式を解き、因子負荷量  $b$ 、因子得点  $f$  を求める分析を行った。

$$\begin{aligned} y_{1i} &= b_{11}f_{1i} + b_{12}f_{2i} + \dots + b_{1k}f_{ki} + e_{1i} \\ &: & : \\ y_{ji} &= b_{j1}f_{1i} + b_{j2}f_{2i} + \dots + b_{jk}f_{ki} + e_{ji} \\ &: & : \\ y_{mi} &= b_{m1}f_{1i} + b_{m2}f_{2i} + \dots + b_{mk}f_{ki} + e_{mi} \end{aligned}$$

$y_{ji}$	: 目的変数 (本研究では自治会 $i$ における設問 $j$ の回答値)
$b_{j1}, \dots, b_{jk}$	: 設問 $j$ に関する潜在因子 $F_1, \dots, F_k$ の因子負荷量
$f_{1i}, \dots, f_{ki}$	: サンプル (本研究では自治会) $i$ における潜在因子 $F_1, \dots, F_k$ の因子得点
$e_{ji}$	: サンプル (本研究では自治会) $i$ における設問 $j$ に関する独自因子
$k$	: 潜在因子数
$m$	: 設問数 (本研究では $m=13$ )
$n$	: サンプル数 (本研究では自治会数 $n=40$ )

ここで、言葉の定義は以下の通りである。

- **因子得点 (Factor score)** : 各サンプル (本研究では各自治会) が持っている各潜在因子 ( $F_1, \dots, F_k$ ) の大きさを直接観測はできない。各サンプルの潜在因子に対する評価の大きさの違いが因子得点として表される。
- **因子負荷量 (Factor loading)** : 各潜在因子 ( $F_1, \dots, F_k$ ) が各設問 ( $1, \dots, m$ ) に及ぼす影響の度合いを表す。各潜在因子は、全設問に対して大なり小なり影響を及ぼしており、因子負荷量は潜在因子と設問の組み合わせによって決まる。
- **独自因子 (Unique factor)** : 目的変数  $y$  (本研究では地域の特性に関する調査項目の集計値) に影響を与える各設問 ( $1, \dots, m$ ) 独自の因子。共通因子は全観測値に影響を与えるが、独自因子は1つの観測値だけに影響を与える。因子分析においては誤差としての扱いを受ける。

上式を満たす解の組み合わせは理論的には無数にある（解の不定性）。そのため、分析条件（因子数、抽出法、回転法）を複数ケース設定し、それらの分析結果を比較検討する形で、最も妥当と考えられる因子構造を求める。分析条件は、それぞれの調査上の条件を加味して選定するが、最終的にどの解を選択するかは、因子の解釈をより容易にするために「単純構造」となる解を選択するのが望ましいとされる。単純構造とは、各設問が特定の因子にだけ大きな負荷量を示したパターンである。

本研究においても、分析手法をある程度選定した上で、分析条件を複数ケース設定し、分析結果の比較検討を行った。分析の詳細は「参考：分析手法の選定と分析ケースの比較検討過程」（p.3-27～3-32）に詳述しているが、分析の結果、因子数は4因子、抽出法は最尤法、回転はプロマックス回転のケースを採用した。なお、分析における実際の計算過程は、統計分析ソフト「SPSS12.0J」（SPSS社製）を使用した。

また、因子分析の具体的な作業イメージは図 3-5 の通りである。

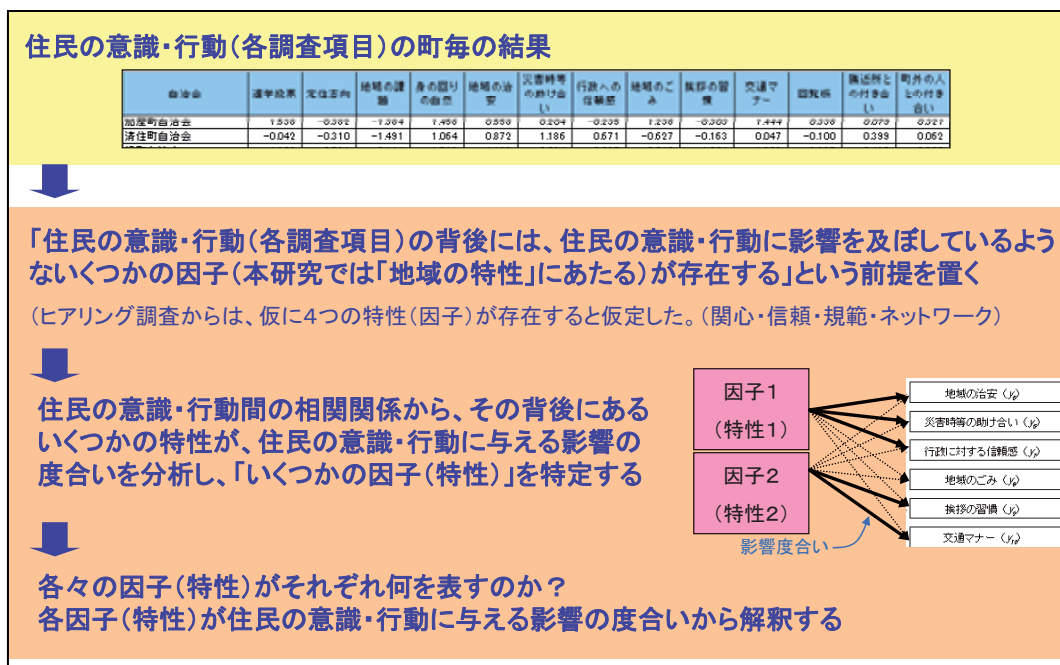


図 3-5 因子分析の具体的な作業イメージ図

## ② 「地域の特性」に関する因子分析結果

因子分析の結果、最終的に得られた因子負荷量は表 3-1 1 の通りである。因子負荷量から各潜在因子の特性を解釈した結果は次頁以降の通りである。なお、表中の調査項目は略称であり、アンケート調査項目と略称の対応は表 3-1 2 のとおりである。また、下記の因子負荷量を導くまでの分析過程は「参考：分析手法の選定と分析ケースの比較検討過程」(p.3-27～3-32) として後述した。

表 3-1 1 因子負荷量 (最尤法、プロマックス回転)

Q	調査項目 (略称)	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
10	挨拶の習慣	0.956	0.203	-0.060	-0.200
4	地域の課題	0.625	-0.072	0.062	0.220
11	交通マナー	0.526	-0.072	0.268	0.069
12	回覧板	0.433	0.030	-0.074	0.281
7	災害時の助け合い	0.173	0.884	-0.001	-0.041
6	地域の治安	-0.063	0.615	0.105	-0.010
8	行政への信頼感	-0.292	0.540	0.169	-0.102
3	定住志向	-0.115	0.155	0.683	0.187
5	身の回りの自然	0.069	0.111	0.658	-0.109
2	選挙投票	0.207	-0.050	0.654	0.097
13	隣近所との付き合い	-0.059	0.387	-0.246	0.710
14	町外の人との付き合い	0.194	-0.124	0.059	0.679
9	地域のごみ	0.093	-0.116	0.214	0.545

※各調査項目の内容は下表参照

表 3-1 2 アンケート調査項目と略称

No.	アンケート調査項目	略称
Q2	あなたは地方選挙の時に必ず投票に行きますか	選挙投票
Q3	あなたはこれから住んでいる地域に住み続けたいと思いますか	定住志向
Q4	あなたの住んでいる地域では、地域全体で改善すべき課題(皆が悩んでいることや困っていること等)があると思いますか	地域の課題
Q5	あなたは住んでいるところの近くで、自然(川や水辺、樹林、草地など)にふれあえる場所に良く行きますか	身の回りの自然
Q6	あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか	地域の治安
Q7	あなたの住んでいる地域では、地震などの災害があったとき、困っていれば近所の人から助けられると思いますか	災害時の助け合い
Q8	あなたは三島市を信頼できると思いますか	行政への信頼感
Q9	あなたは近所の道路や公園、水辺などに、もしごみが落ちていたら拾いますか	地域のごみ
Q10	あなたは家の近くで人に出会ったら挨拶をしますか	挨拶の習慣
Q11	あなたは家の近くで自動車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに、交通マナーに気を配っていますか	交通マナー
Q12	あなたは地域の回覧板について、きちんと目を通して次に回していますか	回覧板
Q13	あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか	隣近所との付き合い
Q14	あなたは町外の人とよく付き合っていますか	町外の人との付き合い



### 第1因子：「地域内における行動規範」

第1因子の因子負荷量が大きいののは、「挨拶の習慣」0.956、「地域の課題」0.625、「交通マナー」0.526、「回覧板」0.433といった項目である。

「挨拶の習慣」「交通マナー」は、ヒアリング調査結果から「地域での規範」と想定していた項目である。「地域の課題」「回覧板」については想定とは異なるが、いずれも地域はこうあるべき、地域ではこう行動すべき、やるべきことはきちんとやる、という意識や行動に繋がる項目であることから「地域内における行動規範」と解釈できる。

### 第2因子：「地域内での信頼」

第2因子の因子負荷量が大きいののは「災害時の助け合い」0.884、「地域の治安」0.615、「行政への信頼感」0.540といった項目である。その他、「隣近所との付き合い」の第2因子の因子負荷量も0.387とやや大きくなっている。

「災害時の助け合い」「地域の治安」「行政への信頼感」は、いずれも地域に対する信頼感、安心感といったものを表している項目であると考えられることから、「地域内での信頼」と解釈できる。

### 第3因子：「地域に対する愛着」

第3因子の因子負荷量が大きいののは「定住志向」0.683、「身の回りの自然」0.658、「選挙投票」0.654といった項目である。

調査項目の作成時には、「定住志向」「身の回りの自然」「選挙投票」といった項目に、「地域の課題」を加えた4項目が「関心」ではないかと想定していた。しかし「地域の課題」の因子負荷量は小さく、「定住志向」「身の回りの自然」「選挙投票」のような地域に対して好意的で主体的な意識や行動を表す項目の因子負荷量大きい。「地域の課題」については、「改善すべき点があるかどうか」を尋ねる項目であり、例えば、地域に対して好意的に思っていないくても現状に不満を持っているために「改善すべき」と回答する人や、好意的で現状に満足しているがゆえに「課題はない」と回答する人が存在すると考えられる。

以上より、第3因子は、地域に対する好意的な気持ちから発生する意識や行動を表す「地域に対する愛着」を表す因子であると解釈できる。

### 第4因子：「地域内外での人との付き合い」

第4因子の因子負荷量が大きいののは、「隣近所との付き合い」0.710、「町外の人との付き合い」0.679、「地域のごみ」0.545といった項目である。

すなわち、第4因子は人との付き合いに関する負荷量大きいことから、「地域内外での人との付き合い」を表すと解釈できる。

調査項目作成時には、前者2項目に「回覧板」という地域の情報ネットワークの項目も含めて「ネットワーク」と仮定していたが、「回覧板」の因子負荷量よりも、「地域での規範」であると想定していた「地域のごみ」の因子負荷量大きい結果となった。近隣でゴミを拾うという行動は、ゴミは拾わなければならないという規範的な意識に起因するものではなく、人との付き合いを通じて、近隣についても自宅と同じように所有意識を持つようになることから生まれる行動であるとも考えられる。

以上から、地域活動が継続・安定して行われるために重要となる「地域の特性」は、「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」の4つの特性で表現することが妥当であると評価した（検討の流れは図 3-6 のとおり）。

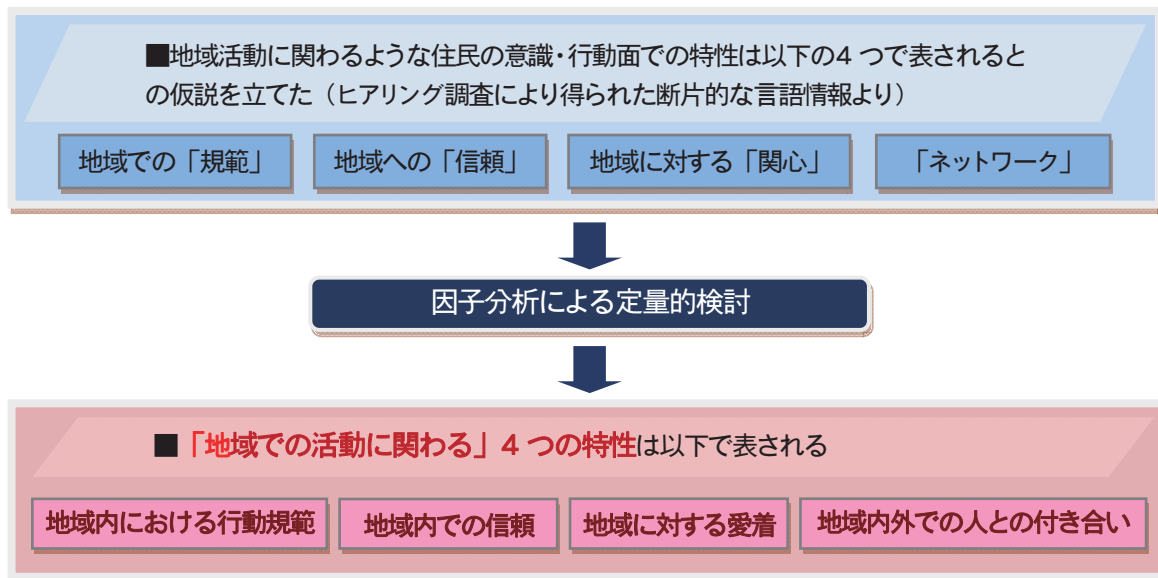


図 3-6 アンケート調査から得られた「地域の特性」の仮説と因子分析による定量的分析結果

## ◇参考：分析手法の選定と分析ケースの比較検討過程◇

因子分析を進める上で、分析手法の選定が必要となる段階は、(1) 因子の抽出 (2) 因子数の決定 (3) 因子軸の回転 (4) 因子得点の推定であるが、ここでは、(1) ~ (3) の分析過程を示す。((4) 因子得点の推定の方法はいく通りか提案されているが、その優劣は明らかになっていない (芝 1979) ため、本分析では一般的によく利用される回帰法を用いて推定したためである。)

### (1) 因子の抽出

観測変数から因子を抽出する際には、主に最尤法か主因子法が用いられる。

最尤法は基本的に多変量正規分布のときに利用され、不適解が出やすい方法である (たとえば heywood (ヘイウッド) ケース：計算の途中で共通性 (項目ごとに持つ値で、その項目の分散のうち因子によって占められる分散の割合。共通性が低い項目は因子によってあまり説明されていないことから除いてもよいとされる) の推定値が 1 を超えるなど)。対処方法としては、1つの因子に最低 3つの項目を負荷させる (3 指標条件)、サンプル数を増やす (標本誤差を減らす) といった方法が挙げられる。

一方、主因子法 (反復主因子法) は、第 1 因子から順次、因子寄与を最大にするよう因子を定める方法であり、主因子法によって作られた因子はお互いに直交する。不適解が出にくく、基本的には多変量正規分布以外のときに利用される方法である。

質の良いデータでは両者の推定結果は大きくは違わず、最尤法はセンシティブすぎて使いにくいことから、因子分析の初心者には主因子法を用いて分析を進め、中級者以上は「反復主因子法+最尤法」を用いるべきとの議論もある (解析初期では主因子法、細かい解釈の時は最尤法でない不安がある) (狩野 (1998))。

そこで、本研究では双方の分析手法を用いて因子の抽出を行い、最尤法で良い結果が出れば、より厳しい推定により説明可能なので、そちらを使用することとした。

### (2) 因子数の決定

次に、因子数の決定については、本研究においてはヒアリング調査結果から 4 つの「地域の特性」を想定したが、明確な知見が得られているわけではないため、「因子数=4」を既定値としなかった。

堀 (2005) によると、カイザー・ガットマン基準とスクリープロットなどが広く用いられる基準として示されている。カイザー・ガットマン基準とは、相関行列の値が 1 以上のものの個数を因子数とするものである。相関行列の固有値は各因子の分散の大きさを反映しており、それぞれの因子の重要度の指標でもあるためである。最もよく使用されるが、基準が大雑把であるとの指摘がある。また、スクリープロットの図で、グラフの傾きが急変する値を基準に固有値の個数をとる方法は、カイザー・ガットマン基準より緻密であり、カイザー・ガットマン基準の次によく使用される基準であるが、誤りも多いとされる。いずれの方法も一長一短であり、決定的に正しい方法は存在しない。研究結果や何らかの根拠により推測しうる因子数を用いて、結果、因子構造が研究目的に適するものかどうか検討し、不適切な場合は、因子数を増減して回転しなおす方法が良いとの議論もある (芝 1979)。

以上より、本研究では、カイザー・ガットマン基準やスクリープロットの図を用いた基準を参考にしつつ、複数の因子数に基づく分析を行うこととした。

因子数のおよその範囲を把握するためにスクリープロット（図3 - 参 1）を確認したところ、カイザー・ガットマン基準（固有値1以上）では4因子構造となった。また、スクリープロットの傾きに基づく目視判断では、第3あるいは第4因子より後の傾きが小さくなっていることから、3因子あるいは4因子構造程度が妥当である可能性が示唆された。

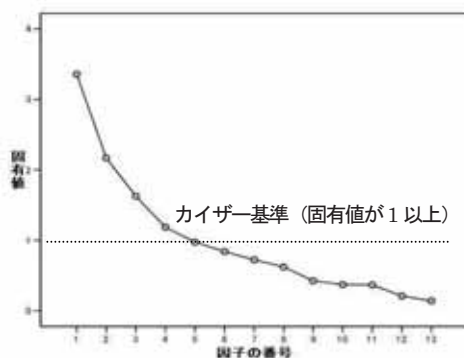


図3 - 参 1 スクリープロット

### （3）因子軸の回転

因子軸の回転を行うことで、回転を行わない場合より解が単純構造になることから、因子が解釈しやすくなる。

回転方法としては、直交回転と斜交回転があり、直交回転（バリマックス回転）とは、因子同士の無相関を仮定した上で、できるだけ因子負荷を単純構造に近づけるよう回転させる方法である。一方、斜交回転（プロマックス回転）は因子同士の相関性を認める回転法であり、回転の自由度が高いことから単純構造となりやすい。しかし、単純構造を最優先するため、似たような意味で解釈される因子が抽出されてしまうこともある。なお、単純構造とは、それぞれの項目の因子負荷が特定の因子だけに大きく、残りの因子に対しては非常に小さいような構造である。

回転方法の選定方法としては、近年、因子が無相関であることはまずないことから、斜交解の報告が増加している（狩野（1998））が、直交回転か斜交回転かはデータから決めるものではなく、研究内容に応じて研究者自身が決定すべきものであるとされる。本研究においても因子間が無相関である（すなわち、地域の特性を構成する項目の間に相関関係がない）との仮定は困難であることから、斜交回転（プロマックス回転）を用いることとした。

以上より、分析ケースは3因子構造と4因子構造、最尤法と主因子法の各ケースの合計4ケースについて分析を行う(表3 - 参 1)。ただし、4因子構造の主因子法では計算過程でうまく収束せず、結果が出力されなかったことから、主因子法と同じ理論的解を持つ「重み付けのない最小2乗法」を用いて比較検討した。各ケースの分析結果を本頁以降に記載するが、その際、負荷量>0.4となるものを太字にしており、抽出された因子は、主に負荷量0.4以上の項目に大きな影響を与えているとして考察を行った。

表3 - 参 1 ケース設定

因子抽出法	4因子構造	3因子構造
最尤法 (Maximum likelihood)	ケース M4	ケース M3
主因子法 (Principal axis factoring)	(検討不可能)	ケース P3
重み付けのない最小2乗法 (Unweighted least squares)	ケース U4	—

ケース M4 (因子数=4、最尤法) :

最終的に採用されたのがこの M4 である。P.3-35 で述べたように第1因子から「地域内における行動規範」、「地域内での信頼」、「地域への愛着」、「地域内外での人との付き合い」と解釈できる。

表3 - 参2 因子負荷量 (ケース M4 : 4因子、最尤法)

		第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	2番目に負荷量大きい因子との差
9	挨拶の習慣	<b>0.956</b>	0.203	-0.060	-0.200	0.753
3	地域の課題	<b>0.625</b>	-0.072	0.062	0.220	0.405
10	交通マナー	<b>0.526</b>	-0.072	0.268	0.069	0.258
11	回覧板	<b>0.433</b>	0.030	-0.074	0.281	0.152
6	災害時等の助け合い	0.173	<b>0.884</b>	-0.001	-0.041	0.711
5	地域の治安	-0.063	<b>0.615</b>	0.105	-0.010	0.510
7	行政への信頼感	-0.292	<b>0.540</b>	0.169	-0.102	0.248
2	定住志向	-0.115	0.155	<b>0.683</b>	0.187	0.496
4	身の回りの自然	0.069	0.111	<b>0.658</b>	-0.109	0.547
1	選挙投票	0.207	-0.050	<b>0.654</b>	0.097	0.447
12	隣近所との付き合い	-0.059	0.387	-0.246	<b>0.710</b>	0.323
13	町外の人との付き合い	0.194	-0.124	0.059	<b>0.679</b>	0.485
8	地域のごみ	0.093	-0.116	0.214	<b>0.545</b>	0.331
因子の解釈		行動規範	信頼	愛着	付き合い	—

ケース U4（因子数=4、重み付けのない最小2乗法）：

因子構造は M4 とほぼ同様であったが、「隣近所との付き合い」が第4因子（地域内外での付き合い）だけでなく第2因子（地域内での信頼）でも 0.4 以上の大きい負荷量となっている。また、2番目に負荷量が高い因子との差を M4 と比較すると、本ケースの方が比較的負荷量の差が小さい項目が多い。

以上より、各因子については M4 と同様の解釈ができるが、M4 の方がより単純構造に近いと考えられる。

表3 - 参3 因子負荷量（ケース U4：4 因子、重み付けのない最小2乗法）

		第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	2番目に負荷量が高い因子との差
9	挨拶の習慣	<b>1.009</b>	0.198	0.001	-0.192	0.811
3	地域の課題	<b>0.518</b>	-0.081	-0.046	0.227	0.291
11	回覧板	<b>0.474</b>	0.023	0.029	0.281	0.193
10	交通マナー	<b>0.444</b>	-0.093	0.221	0.091	0.223
6	災害時等の助け合い	0.209	<b>0.868</b>	0.025	-0.038	0.659
5	地域の治安	-0.122	<b>0.639</b>	0.021	-0.027	0.517
7	行政への信頼感	-0.292	<b>0.529</b>	0.176	-0.093	0.237
4	身の回りの自然	0.027	0.076	<b>0.715</b>	-0.111	0.604
1	選挙投票	0.222	-0.061	<b>0.679</b>	0.139	0.457
2	定住志向	-0.185	0.169	<b>0.564</b>	0.192	0.372
13	町外の人との付き合い	0.179	-0.092	0.040	<b>0.698</b>	0.519
12	隣近所との付き合い	-0.025	<b>0.424</b>	-0.240	<b>0.665</b>	0.241
8	地域のごみ	0.098	-0.135	0.222	<b>0.574</b>	0.352
因子の解釈		行動規範	信頼	愛着	付き合い	—

ケース M3 (因子数=3、最尤法) :

第 1 因子は「挨拶の習慣」、「地域の課題」、「回覧板」が正の負荷量が大きく、「定住志向」、「行政への信頼感」が負の負荷量が多い。「地域に対して規範的だが否定的」と言い表すこともできるが、2つの特性を含んでいることから、地域の特性を説明する因子としては適切ではないと考えられる。第 2 因子は M4・U4 と同様の組み合わせであり「地域内での信頼」、第 3 因子も同様に「地域内外での付き合い」と解釈できる。

また、「交通マナー」、「身の回りの自然」、「選挙投票」の 3 項目はいずれの因子に対する因子負荷量も小さく、因子の解釈に用いることは難しかった。

表 3 - 参 4 因子負荷量 (ケース M3 : 3 因子、最尤法)

		第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	2 番目に負荷量が多い因子との差
9	挨拶の習慣	<b>0.863</b>	0.168	-0.204	0.659
3	地域の課題	<b>0.611</b>	-0.034	0.182	0.430
11	回覧板	<b>0.527</b>	0.054	0.258	0.269
2	定住志向	<b>-0.493</b>	0.150	0.367	0.126
10	交通マナー	0.382	-0.051	0.170	0.212
4	身の回りの自然	-0.378	0.071	0.092	0.287
6	災害時等の助け合い	0.169	<b>1.024</b>	-0.109	0.856
5	地域の治安	-0.163	<b>0.512</b>	0.055	0.348
7	行政への信頼感	<b>-0.426</b>	<b>0.484</b>	0.000	0.058
13	町外の人との付き合い	0.280	-0.145	<b>0.792</b>	0.511
8	地域のごみ	0.070	-0.009	<b>0.588</b>	0.518
12	隣近所との付き合い	0.146	0.381	<b>0.535</b>	0.154
1	選挙投票	-0.149	-0.009	0.310	0.161
因子の解釈		(規範・ 地域否定)	信頼	付き合い	—

ケース P3（因子数=3、主因子法）：

第1因子はM3と同様「地域に対して規範的だが否定的」と言い表すこともできるが、2つの特性を含んでいることから、地域の特性を説明する因子としては適切ではないと考えられる。第2因子はM3同様「地域内での信頼」と解釈できる。第3因子は「定住志向」「選挙投票」「地域のごみ」から地域への「関心」を表す因子とも読み取れるが、「町外での付き合い」という地域外の項目も含まれており、解釈が困難であった。

表3 - 参5 因子負荷量（ケース P3：3因子、主因子法）

	第1因子	第2因子	第3因子	2番目に負荷量大きい因子との差
9 挨拶の習慣	<b>0.770</b>	0.135	-0.244	0.526
3 地域の課題	<b>0.593</b>	-0.037	0.155	0.438
11 回覧板	<b>0.522</b>	0.073	0.232	0.290
4 身の回りの自然	<b>-0.412</b>	-0.011	0.254	0.158
10 交通マナー	0.308	-0.098	0.170	0.138
6 災害時等の助け合い	0.120	<b>0.888</b>	-0.136	0.752
5 地域の治安	-0.176	<b>0.653</b>	-0.079	0.477
7 行政への信頼感	<b>-0.446</b>	<b>0.507</b>	-0.027	0.061
12 隣近所との付き合い	0.257	<b>0.500</b>	0.396	0.104
8 地域のごみ	0.153	-0.090	<b>0.678</b>	0.525
13 町外の人との付き合い	0.357	0.007	<b>0.645</b>	0.288
2 定住志向	<b>-0.464</b>	0.125	<b>0.489</b>	0.025
1 選挙投票	-0.144	-0.092	<b>0.440</b>	0.296
因子の解釈	(規範・地域否定)	信頼	(困難)	—

選定結果：

各ケースにおける因子の解釈を整理すると、M3・P3の場合は、地域の特性として因子を解釈することが難しく、構造も単純化できなかつたことから、3因子構造は妥当でないと判断した。ケースM4とケースU4は、因子名の解釈としてはどちらを採用しても同じであるが、より単純構造に近いと考えられるケースM4を選定することとした（ただしM4、U4ともに因子の解釈の結果は同様であった）。

表3 - 参6 各ケースにおける因子の解釈

ケース名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	選定結果
ケースM4	地域における行動規範	地域内での信頼	地域への愛着	地域内外での付き合い	○
ケースU4	地域における行動規範	地域内での信頼	地域への愛着	地域内外での付き合い	×
ケースM3	(規範・地域否定)	地域内での信頼	地域内外での付き合い	—	×
ケースP3	(規範・地域否定)	地域内での信頼	(解釈困難)	—	×



### 3. 3. 5 「地域の特性」と地域活動の活発さの相関分析

3. 3. 4において因子分析を用いて検討した結果、「地域の特性」は、「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」の4つの特性で言い表されることがわかった。そこで、「地域の特性」と地域活動の関係を定量的に把握するために相関分析を行った。

#### ① 「地域の特性」と地域活動の活発さの相関分析の方法

ここでは、各町の持つ地域の特性の大きさと地域活動の活発さとの相関係数（スピアマンの順位相関係数）を算出した。

ここで、各町の持つ「地域の特性の大きさ」は、因子分析により算出される各町の因子得点である。因子得点とは各サンプルの持っている各潜在因子の大きさであり（3. 3. 4①）、本研究においては各町の持つ地域の特性の大きさに値する。

また、「地域活動の活発さ」については、3. 3. 3で設定している係数を用いて、自治会活動への参加頻度およびNPO活動への参加頻度を町ごとに平均値を算出し、この値を各町の「地域活動の活発さ」としている（分析のイメージは図 3-7のとおり）。

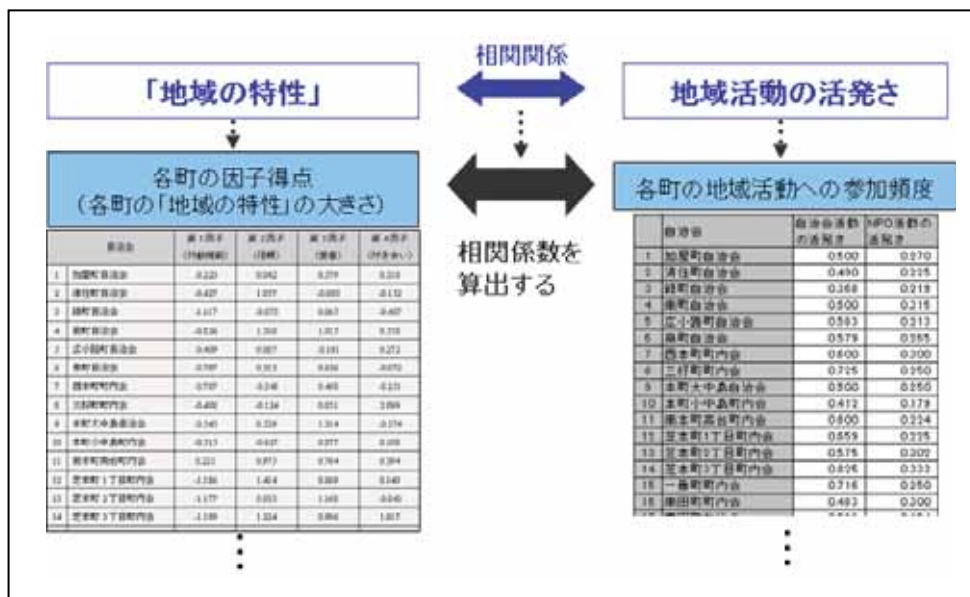


図 3-7 相関分析の具体的な作業イメージ図

## ② 「地域の特性」と地域活動の活発さとの相関分析の結果

地域の特性と地域活動の活発さとの相関分析の結果（表 3-13）、まず、自治会活動の活発さと「地域における行動規範」に有意な相関関係が見られた。これより、地域はこうあるべき、地域ではこう行動すべき、地域においてやるべきことはきちんとやるといった意識や行動が、自治会活動への参加に繋がっていることが考えられる。

一方、NPO 活動の活発さは、「地域に対する愛着」、「地域内外での人との付き合い」との間に有意な相関関係が見られた。すなわち、NPO 活動に参加している住民は、地域に愛着を持っており、人との付き合いがより活発な傾向にある。更に、「地域内での信頼」ともやや弱いものの相関関係にある。

表 3-13 地域の特性と地域活動の活発さの相関係数（スピアマンの順位相関係数）

	行動規範	信頼	愛着	付き合い
自治会活動	0.480**	0.089	-0.364*	0.091
NPO 活動	-0.326*	0.270*	0.602**	0.378**

※\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意な相関が見られた

なお、各町における因子得点の算定結果は表 3-14、因子得点を算出する際に求めた因子得点行列は表 3-15の通りである。

表 3-14 各町における因子得点の算定結果

自治会		第1因子 (行動規範)	第2因子 (信頼)	第3因子 (愛着)	第4因子 (付き合い)
1	加屋町自治会	-0.223	0.042	0.579	0.310
2	清住町自治会	-0.427	1.057	-0.003	-0.152
3	緑町自治会	-1.117	-0.073	0.065	-0.407
4	南町自治会	-0.826	1.310	1.015	0.558
5	広小路町自治会	-0.409	0.007	-0.161	0.272
6	泉町自治会	-0.707	0.313	0.636	-0.072
7	西本町町内会	-0.707	-0.348	0.468	-0.251
8	三好町町内会	-0.488	-0.124	0.051	2.899
9	本町大中島自治会	-0.545	0.529	1.314	-0.374
10	本町小中島町内会	-0.515	-0.627	0.877	0.108
11	南本町高台町内会	0.221	0.975	0.764	0.394
12	芝本町1丁目町内会	-1.186	1.414	0.869	0.140
13	芝本町2丁目町内会	-1.177	0.033	1.168	-0.043
14	芝本町3丁目町内会	-1.199	1.224	0.996	1.017
15	一番町町内会	-0.704	0.364	1.192	1.054
16	南田町町内会	-0.873	-1.454	1.564	0.016
17	富田町自治会	-0.994	1.528	0.982	0.727
18	中央町自治会	-1.576	-0.257	-0.474	-1.341
19	文教町2丁目自治会	-0.550	-1.001	-0.003	-0.739
20	大社町自治会	-0.657	0.825	0.709	0.726
21	大宮町1丁目自治会	0.038	-1.370	1.502	-0.521
22	大宮町2丁目自治会	-0.818	1.147	0.261	0.139
23	加茂町内会	0.189	0.429	-0.045	0.153
24	沢地町内会	1.006	0.024	-0.921	1.212

表 3-14 (続き) 各町における因子得点の算定結果

自治会		第1因子 (行動規範)	第2因子 (信頼)	第3因子 (愛着)	第4因子 (付き合い)
25	東壱町田町内会	-0.114	-1.910	-0.194	-1.243
26	富士ビレッジ自治会	0.834	-0.922	-0.201	1.401
27	徳倉第5自治会	0.716	-0.288	-0.092	-0.740
28	富士見台自治会	2.694	0.189	-1.034	-1.071
29	見晴台自治会	0.502	0.364	-0.651	-0.052
30	三ッ谷自治会	1.249	1.504	-0.605	1.160
31	三恵台自治会	2.016	-1.016	-0.346	-0.046
32	初音台町内会	0.840	0.933	-0.400	-0.451
33	錦が丘自治会	1.642	-0.296	-1.074	-1.774
34	松が丘自治会	0.780	-0.562	-1.490	-0.716
35	大場町内会	0.018	-0.328	-1.618	0.578
36	長伏町内会	-0.050	-0.873	-1.488	-1.480
37	御園町内会	1.589	-1.501	-0.912	-0.497
38	安久町内会	0.090	-0.034	-1.145	0.699
39	東大場町内会	1.347	0.294	-1.112	-0.709
40	梅名自治会	0.090	-1.521	-1.042	-0.887

表 3-15 因子得点係数行列

		第1因子 (行動規範)	第2因子 (信頼)	第3因子 (愛着)	第4因子 (付き合い)
1	選挙投票	0.026	-0.025	0.188	0.040
2	定住志向	0.032	0.115	0.517	0.121
3	地域の課題	0.037	-0.057	0.030	0.108
4	身の回りの自然	0.001	0.026	0.203	-0.031
5	地域の治安	-0.040	0.181	0.033	-0.015
6	災害時等の助け合い	-0.106	0.485	0.004	-0.022
7	行政への信頼感	-0.056	0.208	0.059	-0.073
8	地域のごみ	0.045	-0.038	0.061	0.160
9	挨拶の習慣	0.955	0.124	-0.210	-0.231
10	交通マナー	0.022	-0.039	0.070	0.043
11	回覧板	0.023	-0.017	-0.012	0.094
12	隣近所との付き合い	0.048	0.263	-0.204	0.559
13	町外の人との付き合い	0.064	-0.056	0.023	0.242

### 3. 4 地域活動の展開のパターンに関する分析 ー地域の特性に着目してー

#### 3. 4. 1 地域活動の展開のパターンに関する分析の方法

ここでは、ヒアリング調査およびアンケート調査により分析を行ってきた「地域の特性」と地域活動との関係に着目して、ヒアリング調査対象事例によって把握できた地域活動の展開のパターンを時系列で分析し、共通点を抽出した。

具体的には、徳島県徳島市における「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動、および横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道における「都田江川水辺愛護会」による水路の維持管理活動を対象として、活動の経緯を①活動のきっかけ、②活動の実施、③活動の継続の3つに区分して地域活動の展開を整理した。その際、地域活動のきっかけ、実施、継続に繋がるような「地域の特性」（住民の意識や行動）に着目した整理をおこなっている。更に、事例から見出された地域の特性に関連する共通点を整理した。

#### 3. 4. 2 地域活動の展開のパターンに関する分析の結果概要

徳島県徳島市における「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動、および横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道における「都田江川水辺愛護会」による水路の維持管理活動について、地域活動の展開のパターンに関する分析の結果を示す。

**徳島県徳島市における「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動：**

① 活動開始のきっかけ：

新町川では、昭和 61 年～平成元年にかけて、新町川水際公園整備事業が実施された。水際公園の完成イベントとして、地元のマスメディアから中心市街地の商店街にイベント開催の提案があり、阿波踊りの時期の昼のイベントとしていかだレースを実施した。その際、どのアングルから川を撮影しても写ってしまう多くのゴミ、ヘドロに危機意識を持った商店街の事業部長と、彼の付き合い（趣味での付き合い、商店街の事業部長としての付き合いなど）を通じて集まった有志 10 名程度で川での清掃活動を始めた。

② 活動の実施：

中心的な住民による月 2 回の河川清掃とイベント（新町川を周遊する無料の遊覧船の運航など）などの活動が行われた。河川清掃については、ゴミを捨てる人がいても黙ってゴミを拾う、年数回ではなく月 2 回、参加人数が少なくても実施するといった活動を継続的に実施した。すると、近隣住民が街路樹への水やりに水を貸してくれるようになるなど、少しずつ活動への参加・協力が得られるようになった。

③ 活動の継続：

現在は、清掃活動に加えて、川でのイベントを中心に多様な活動・イベントが行われている。例えば、河川清掃が流域全体の課題認識に繋がり、上流域での森林保全・交流活動が始まった。また、純粹に住民が楽しめるような祭りやイベントも多数開催している。

多くの活動に参加する人、一部の活動に参加する人（例えば森林保全活動のみの参加、河川清掃のみの参加）など、参加形態は様々である。

活動開始から 7・8 年した頃からは川にゴミを捨てる人もいなくなったということである。

以上の活動の展開をまとめたフローは図 3-8 のとおりである。

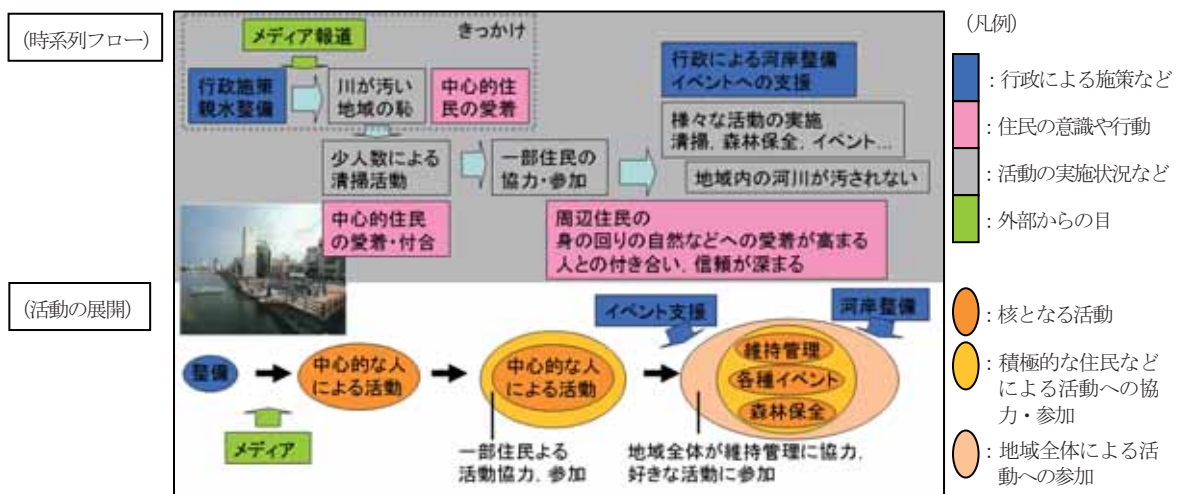


図 3-8 「新町川を守る会」による地域活動の展開

**横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道における「都田江川水辺愛護会」による水路の維持管理活動：**

① 活動開始のきっかけ：

江川では昭和 60 年代からアメニティ下水道モデル事業が実施されており、一部住民との意見交換を経て、平成 8 年江川せせらぎ緑道（農業用水路に下水処理再生水を流すことでせせらぎ水路を再生した）が全面開通した。一部整備が終了し始めた昭和 60 年代頃から行政による清掃・草刈が実施されていたが十分ではなく、また、水路が工場の裏手であることから産業廃棄物も多く捨てられていた。

江川せせらぎ緑道が整備される際に、サクラ並木の要望等を出していた当時の町内会長がこのことに危機感を感じて、周辺住民何名かに声を掛けて清掃・草刈活動を始めたのがきっかけである。「この人（当時の町内会長）に頼まれたらやらない」と活動に参加する住民もいたようだ。

② 活動の実施：

基本的な清掃活動は月 1 度だが、その他にも中心となって活動する住民らが、水路が汚れてきたと感じたらその都度人を集め、あるいは 1 人でも活動を実施する。また、散策する際は必ずゴミ袋を持参するなど、水路は自らの財産だという意識で日常習慣的に活動を行っている。また、中心となって活動する住民の人付き合いを通じて、周辺住民への参加の呼びかけも行っている（しかし参加は強制しない）。

③ 活動の継続：

水路の清掃活動のほかに、地元の学校との協働によるチューリップの球根植えや、桜祭りなどのイベントも開催している。

周辺は工場が多く立地しているが、活動を続け、声を掛けることで工場の参加・協力も得られるようになった。更に、地元マスメディアや区の広報で活動が取り上げられることで、外部に水路や活動が知られるようになった。これによって水路を散策したりイベントに参加する住民が増えた。また、子どもや住民のマナーが向上し、水路にゴミが捨てられなくなったということである。

以上の活動の展開をまとめたフローは図 3-9 のとおりである。

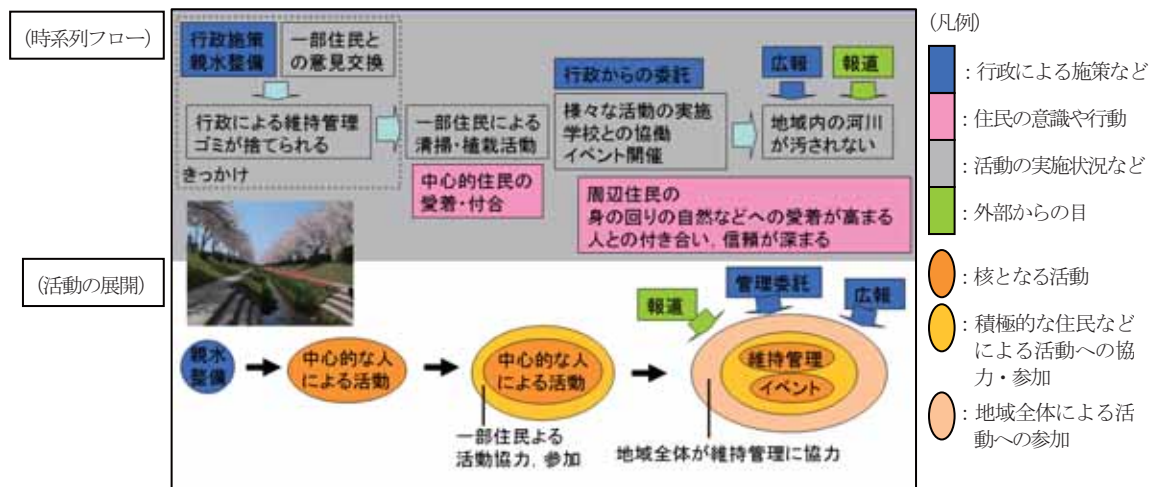


図 3-9 江川せせらぎ緑道における「都田江川水辺愛護会」による地域活動の展開

### 3. 4. 3 地域活動の展開のパターンに共通する特徴の整理

3. 4. 2の分析結果から共通の特徴を整理した。

- ・水辺などが存在しており、一部住民の「地域に対する愛着」から生まれる地域や水辺への危機意識が活動開始のきっかけとなっている。

**(事例該当箇所)**

徳島市「新町川を守る会」の事例では、住民の持つ「地域に対する愛着」から川のゴミやヘドロに危機意識を持ったことがきっかけとなっている。

横浜市都筑区「都田江川水辺愛護会」の事例では、水路整備時に要望を出していた当時の町内会長が、水辺のごみに危機意識を持ったことがきっかけとなっている。また、水辺整備の際の意見交換によって水路への愛着が醸成されたことも考えられる。

- ・一部住民が、自らの「地域内外での人との付き合い」を活用して人を集め、水辺などにおける地域活動を開始している。

**(事例該当箇所)**

徳島市「新町川を守る会」の事例では、活動を開始しようとした住民の持つ「地域内外での人との付き合い」（商店街での活動から広がった付き合いや個人の趣味の付き合い）により人を集めた。

横浜市都筑区「都田江川水辺愛護会」の事例では、当時の町内会長（地域内での「人との付き合い」）が中心となり活動を開始した。

- ・一部住民による活動に触発された、あるいは「付き合い」を通じて声を掛けられた周辺住民が活動に参加・協力するようになる。このような周辺住民は、元来より「地域に対する愛着」が高く、「人との付き合い」が活発であるか、あるいは活動の様子を日常的に見ることで地域や水辺への「愛着」や活動に対する「信頼」が高まったと考えられる。

**(事例該当箇所)**

徳島市「新町川を守る会」の事例では、誰の目から見ても正しく強制もされないような活動（黙ってゴミを拾う河川清掃）が続けられることで、周辺住民の参加・協力が少しずつ得られるようになった。

横浜市都筑区「都田江川水辺愛護会」の事例では、活動の中心となる住民が日常的に活動を実施しながら、地域内での「人との付き合い」により、一部の周辺住民に声を掛けることで、活動参加者を少しずつ増やしている。

- ・活動が継続して実施される様子を目にしたたり、マスメディア等を通じて水辺や活動の存在を知ることによって、地域住民全体の地域や水辺への「愛着」や、活動に対する「信頼」が高まる。そして、各住民の「愛着」「人との付き合い」「信頼」の大きさに応じて、地域全体がなんらかの形で活動に参加・協力を行う。

**(事例該当箇所)**

徳島市「新町川を守る会」の事例では、長年活動を継続することで、川が少しずつ綺麗になり、地域住民全体の地域や川への「愛着」や活動に対する信頼が向上した。また、多くの住民が何らかの形で活動に参加できるよう、多彩な活動（森での活動、河川での活動、各種イベントなど）を実施している。

横浜市都筑区「津田江川水辺愛護会」の事例では、活動が頻繁に継続して行われており、地元メディアや行政による広報も行われている。このことで、活動や水辺が地域住民全体に周知されるようになり、中心となって活動する住民の「愛着」がさらに向上するとともに、地域住民の地域や水辺に対する「愛着」や活動に対する信頼も向上し、イベントへの参加者や水辺を散策する住民が増えている。

- ・各住民による活動への参加形態は大きく2つに分けられる。1つは「愛着」や「付き合い」の度合いが大きい住民による、積極的活動参加（清掃・植栽活動等に主体的に参加する）であり、もう1つは、地域における継続的な活動を通じて「愛着」や「信頼」が醸成された住民による、消極的活動参加（ゴミを捨てない、気づけばゴミを拾う、水辺を散策する、イベントにのみ参加する等）である。

**（事例該当箇所）**

徳島市「新町川を守る会」及び横浜市都筑区「津田江川水辺愛護会」の事例双方において、継続的活動やメディア・広報によって、活動が地域全体に浸透した結果、多くの住民によって、川にゴミを捨てない、散策中にゴミが落ちていたら拾うなどの消極的活動が行われるようになった。

以上から、地域活動の開始、実施、継続には、地域住民の持つ「愛着」や「人との付き合い」、「信頼」といった意識や行動が重要な役割を果たしていることが事例からも改めて把握できた。更に、地域活動を通じてこれらの「地域の特性」が高まっており、両者が関連し合うことで継続・安定した地域活動が達成されていると考えられる（図 3-10）。

また、特に水辺の維持管理においては、消極的活動参加を含め、地域全体がなんらかの形で地域活動に参加することで、地域活動が継続して行われている。また、より多くの住民による消極的活動参加は、積極的活動参加者のモチベーションの維持にも繋がっている。すなわち、継続・安定した地域活動には、地域全体による消極的活動参加の促進も重要であると考えられる。

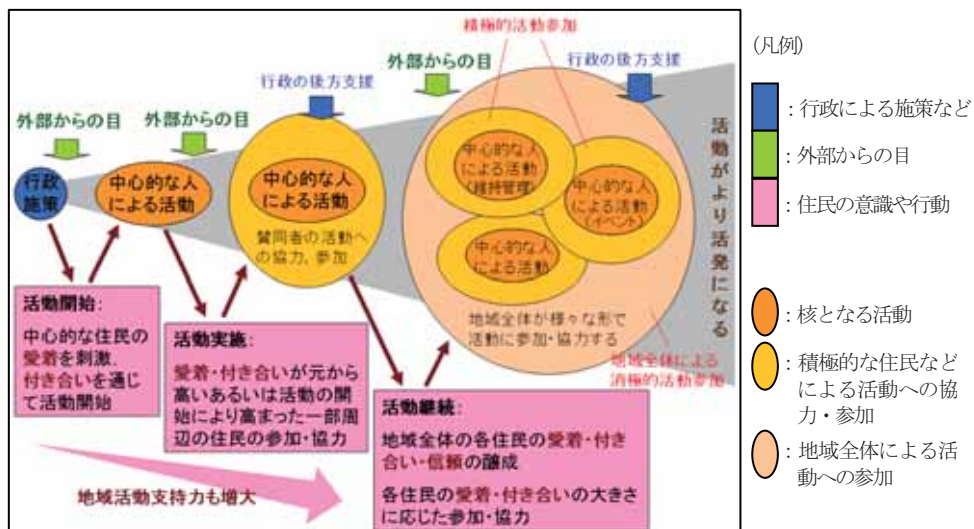


図 3-10 事例に共通して見られた特徴（時系列フロー）



### 3. 5 継続・安定した地域活動に影響する要因の検討―「地域活動支持力」という概念の提案―

本章において、ここまで行ってきたヒアリング調査結果の考察と、アンケート調査による定量的分析結果の考察から、継続・安定した地域活動に影響する要因について、以下の考え方が抽出できた。

#### 【3. 2. 3 継続・安定した地域活動事例の共通点の考察】

調査対象事例では、「地域活動団体が地域住民の意識や人的ネットワークなどの特性に応じた地域活動を実施し、地域住民がそれぞれ持つ意識や行動面での特性に応じて地域活動を受け入れて支えることで、継続・安定した地域活動が行われている」という共通点が見られた。

#### 【3. 2. 4 地域の特性についての仮説、3. 3. 4②地域の特性に関する因子分析結果】

地域の特性とは、地域活動に関わるような地域住民の意識や行動面での特性のことで、「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」の4つの特性で説明できると考えられた。

#### 【3. 3. 5②「地域の特性」と地域活動の活発さの相関分析の結果】

自治会活動の活発さと「地域内における行動規範」に有意な相関関係が見られた。NPO 活動の活発さと、「地域に対する愛着」、「地域内外での人との付き合い」との間に有意な相関関係が見られた。

#### 【3. 4. 3 地域活動の展開のパターンに共通する特徴の整理】

地域活動の開始、実施、継続には、地域住民の持つ「愛着」や「人との付き合い」、「信頼」といった意識や行動が重要な役割を果たしていることが事例からも改めて把握できた。

以上より、「地域の特性」は、「地域内における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」の4つの特性で説明可能である。この特性は、地域活動に重要な役割を果たすような、地域住民の持つ地域活動を受け入れて支えるような意識や行動面での特性であることから、「地域活動支持力」とも呼べるものである。そこで、本研究では「地域活動支持力」という概念を提案する。

地域活動を実施する活動主体が「地域活動支持力」に応じた働きかけを行い、地域住民が各々の持つ「地域活動支持力」に応じて地域活動を受け入れて支えるという両者の関係が、継続・安定した地域活動に繋がっている。また、地域活動を通じて地域全体の「地域活動支持力」が高まり、それが継続・安定した地域活動に繋がるとも考えられ、両者が関連し合うことで継続・安定した地域活動が達成されると考えられる(図 3-11)。

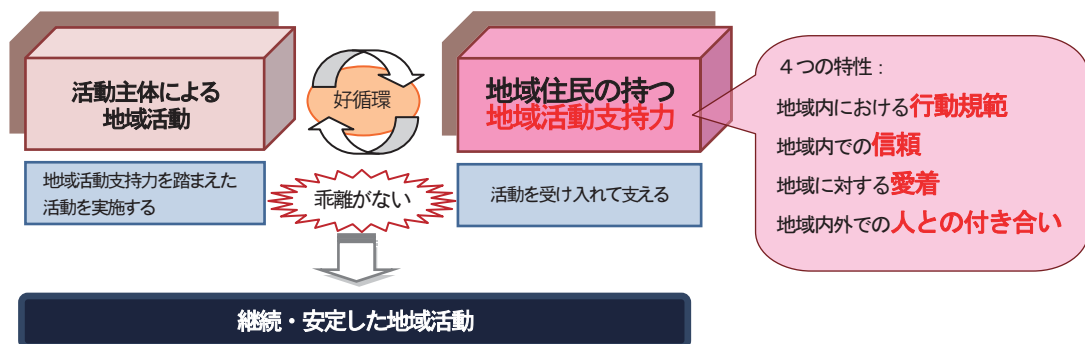


図 3-11 (図 3-3の一部修正) 継続・安定した地域活動と地域活動支持力の関係

### 3. 6 地域活動支持力の特徴

3. 3. 5での分析結果より、自治会活動と「地域内における行動規範」とに関連があり、NPO活動と「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」とに関連があることが示された。すなわち、地域における活動の活発さや活発な活動の種類によって、地域の持つ地域活動支持力の特徴が異なることがわかった。

そこで、「地域活動の活発さ」に応じて地域を以下の4つに分類し、静岡県三島市における分析結果を用いて、類型ごとに地域活動支持力の特徴を考察した。

LN型 : 地縁（自治会）活動および非地縁（NPO）活動がともに活発な地域

Ln型 : 地縁活動が活発な地域

IN型 : 非地縁活動が活発な地域

In型 : 地縁活動および非地縁活動がともに活発でない地域

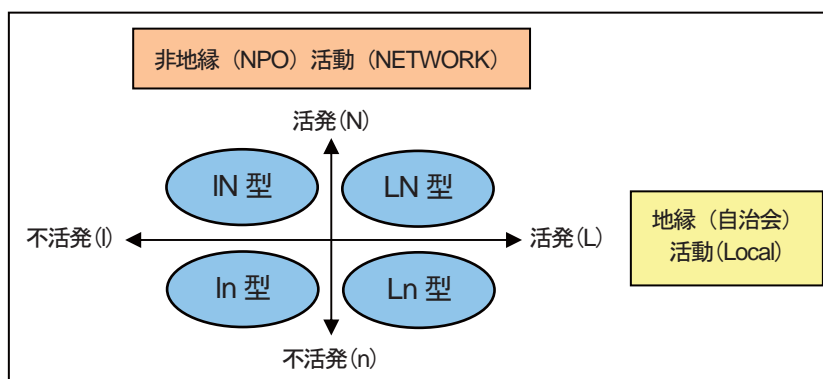


図 3-12 地域活動の活発さによる地域の類型化

なお、ここで、地域活動が活発か活発でないかは、各町の地域活動の活発さが、三島市40町における地域活動の活発さの平均値より大きい小さいかによって区分した。三島市内の各町がどのタイプに類型化されるかは表3-16の通りである。

表 3-16 地域活動の活発さによる三島市40町の類型

LN型	Ln型	IN型	In型
三好町町内会	東壺町町内会	加屋町自治会	緑町自治会
芝本町1丁目町内会	富士ビレッジ自治会	清住町自治会	広小路町自治会
芝本町3丁目町内会	徳倉第5自治会	南町自治会	本町小中島町内会
一番町町内会	富士見台自治会	泉町自治会	富田町自治会
加茂町内会	見晴台自治会	西本町町内会	中央町自治会
沢地町内会	三ッ谷自治会	本町大中島自治会	文教町2丁目自治会
三恵台自治会	初音台町内会	南本町高台町内会	大場町内会
	錦が丘自治会	芝本町2丁目町内会	安久町内会
	松が丘自治会	南田町町内会	梅名自治会
	東大場町内会	大社町自治会	
	長伏町内会	大宮町1丁目自治会	
		大宮町2丁目自治会	
		御園町内会	
7町	11町	13町	9町

各町の地域活動支持力の大きさ（すなわち因子得点）は3. 3. 5の表 3-1 4の通りであり、これを類型ごとに集計して平均値を算出し、類型別に地域活動支持力の特徴を整理した。類型ごとの平均値は表 3-1 7のとおりであり、平均値をレーダーチャートで表したものが図 3-1 3である。

なお、因子得点は、平均値が0、標準偏差が1に標準化された値であることから、各地域活動支持力の平均値は0である。

**LN 型**：地域活動支持力は行動規範を除いて平均値（=0）以上で、行動規範もほぼ平均値程度である。全体的に地域活動支持力は大きく、「付き合い（地域内外での人との付き合い）」が特に大きい。

**Ln 型**：地域活動支持力の中でもとりわけ「地域内における行動規範」が大きく、「地域に対する愛着」や「地域内外での人との付き合い」が比較的小さい。

**IN 型**：地域活動支持力の中で「地域に対する愛着」が大きく、「地域内における行動規範」が若干小さい傾向にある。

**ln 型**：全ての地域活動支持力が平均値を下回っている。

以上から、地縁活動と非地縁活動が双方とも活発な地域（LN 型）では、地域活動支持力が総合的に大きく、特に「地域内外での人との付き合い」が活発な傾向にあった。日常的な人との付き合いが地域活動の積極的な実施や参加に繋がっていると考えられる。また、地域活動が更なる地域内外での人との付き合いに繋がっていると考えられる。

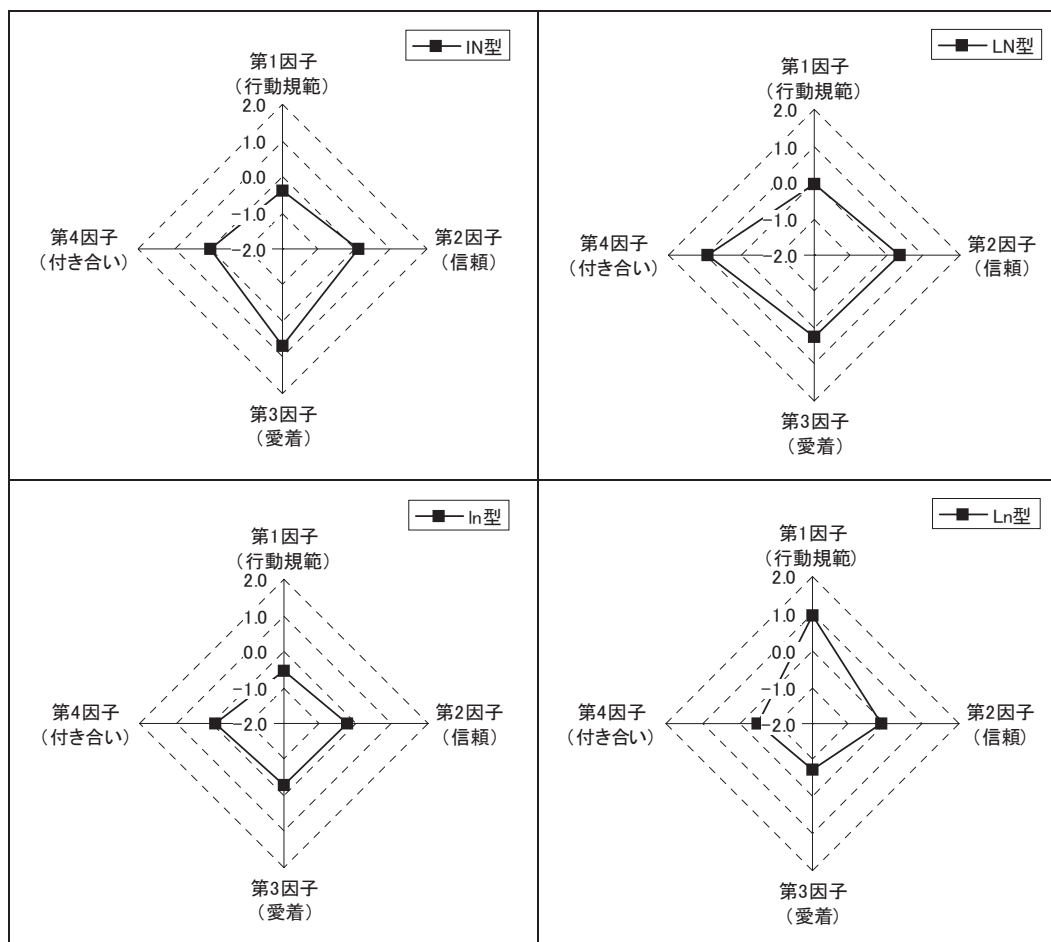
一方で地縁活動・非地縁活動ともに活発に行われていない地域（ln 型）では、地域活動支持力が総合的に小さい。地域活動支持力が小さいことから、地域活動が行われにくく、そのため地域活動支持力も育たないという状況である可能性が考えられる。

また、地縁活動が活発な地域（Ln 型）では、「地域内における行動規範」が大きい。地域はこうあるべきという考えや、地域内での決まりごとやルールを守るといった意識が、自治会活動のような地縁活動を支えていると考えられる。

非地縁活動が活発な地域（IN 型）では、「地域に対する愛着」が大きい傾向があることから、地域の決まりごとを守るといった意識ではなく、定住志向が高く、地域の自然に日常的に親しむ意識、すなわち地域に対して好意的で主体的な意識によって NPO 活動などの非地縁型の活動は支えられていると考えられる。さらに、地域において NPO 活動などの非地縁活動が行われることで、地域に対する愛着が更に大きくなっていることも考えられる。

表 3-17 類型別の地域活動支持力の大きさ（因子得点）

	自治会数	第1因子 (行動規範)	第2因子 (信頼)	第3因子 (愛着)	第4因子 (付き合い)
LN型	7	-0.052	0.331	0.257	0.918
Ln型	11	0.949	-0.142	-0.758	-0.516
IN型	13	-0.393	0.120	0.697	0.018
ln型	9	-0.551	-0.256	-0.280	-0.110



※因子得点の平均値は0である

図 3-13 地域活動の活発さによる類型別の地域活動支持力

## 参考文献

- 狩野裕 (1998) 因子分析と共分散構造分析、日本行動計量学会 春の合宿セミナー資料
- 佐藤寛編 (2001) 社会関係資本概念の有用性と限界「援助と社会関係資本」、アジア経済研
- 芝祐順 (1979) 因子分析法、東京大学出版会
- 内閣府国民安全局市民活動促進課 (2003) 平成 14 年度内閣府委託調査「ソーシャルキャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」
- 藤稿亜矢子 (2009) 既往研究レビューによるソーシャルキャピタル概念の定義に関する考察、環境情報科学 38-1
- 堀啓造 (2005) 因子分析における因子数決定法、香川大経済論叢
- 宮川公男・大守隆 (2004) ソーシャルキャピタルー現代経済社会のガバナンスの基礎、東洋経済新報社
- 柳井晴夫・繁耕算男・前川眞一・市川雅教 (1990) 因子分析-その理論と方法、朝倉書店
- ロバート・D・パットナム (2001) 哲学する民主主義ー伝統と改革の市民的構造、NTT 出版株式会社
- 渡辺豊博 (2005) 清流の街がよみがえった 地域力を結集ーグラウンドワーク三島の挑戦、中央法規出版株式会社

また、本章作成に関しては、以下の論文も一部活用している。

- 伊藤嘉奈子・富田陽子・藤田光一 (2008) 継続・安定した地域活動を支える地域活動支持力とその規定要因について、第 63 回年次学術講演会講演概要集
- 伊藤嘉奈子・原野崇・天野邦彦・富田陽子・今村能之・藤田光一 (2009) 水辺などにおける地域活動と地域住民の持つ特性との関係に関する研究、環境システム研究論文発表会講演集 (37)
- 伊藤嘉奈子・富田陽子・天野邦彦・岸田弘之 (2010) 継続・安定した地域活動と地域の持つ地域活動支持力との関係について、環境情報科学、39 巻 1 号